

---

【長野市市民協働サポートセンター】

# 令和2年度運営報告

---

令和3年3月

特定非営利活動法人 長野県NPOセンター

目次

総 括（令和2年度を振り返って）

令和2年度事業報告

(1)情報の収集・提供業務.....	1
(2)市民公益活動団体、地縁組織、住民自治協議会、企業、NPO 等を対象とした民間相互の継続的な活動支援、また、行政との協働促進業務.....	6
(3)市民公益活動の促進を図るためのその他の事業など.....	17
(4)施設管理業務.....	21

## 【総括】

### 長野市市民協働サポートセンター

#### 令和2年度を振り返って

令和2年度は新型コロナウイルス感染症という見えない災禍に見舞われ、長野市はもちろん、全国で活動する市民活動者が打撃を受けた。これまで対面での活動に重きを置いてきた中で、ソーシャルディスタンスという言葉で他者との距離を保つことが必要となった。各地域で人が集まる場が閉鎖されたり縮小されたことで影響を受けたのは社会の中で弱い立場の人たちだった。

当初は戸惑いや不安から活動を止める団体が多く、センターも休館を余儀なくされた。そんな中でもこれまでの団体とのつながりやセンターに通ってきていた人とのつながりを断たず、コロナ禍でも団体・市民ができることを模索した一年となった。

講座や交流会のオンライン化、ハイブリット開催、また感染予防を徹底しながら「集まる」ことを再開するなど新たな挑戦もした。県内はもとより、全国各地の中間支援センターとのネットワークを活かし、スタッフのスキルアップにつながる取り組みを心がけた。オンラインで普段なら参加が難しいような研修に参加できたことは収穫と言える。

昨年度に引き続き相談件数が増加し、内容も多様になっている。センターが市民活動の相談先として少しずつ認知され、スタッフが顔の見える存在になりつつあるのではないかな。

多くの人たちと課題を共有することで私たち自身が学び、「この生きづらい社会で、課題を抱える人々はどう暮らしているのか？」など、想像力を養うことができる。その想像力を武器に複雑化する地域の課題の解決に邁進したい。そして、多様な主体と共に市民活動に大切な「共感」から「参加」へ、さらに「参画」へとどう発展させていくか。これまで出会うことのなかった人たちに新しい出会いを創出しどう協働へつなげていくか。を念頭におき、地域に足を運び、団体や人材の発掘・サポート・コーディネートに力を入れるとともに、市民が自らコーディネーターとなり、「協働」を推進できるようにしていきたい。

長野市市民協働サポートセンター

センター長 阿部 今日子

## 令和2年度事業報告

### (1) 情報の収集・提供業務

#### <事業内容>

- ① 市民公益活動団体に関する情報の収集及び提供
  - ア 機関誌の発行・配布（年4回以上）及びバックナンバーのホームページ公開
  - イ 市民公益活動団体及び関係機関が発行する機関紙の収集及び管理
  - ウ ホームページ、フェイスブックなどを活用した情報発信及びそれらの管理運用
  - エ 市民公益活動団体の情報ファイルの作成・整理
  - オ その他、人材の紹介、助成金等活動資金、法務、財務会計、税務その他市民公益活動団体の運営のノウハウに関する情報の収集及び提供
- ② 情報掲示板、関係図書管理（各団体のチラシ、ポスター等の提示物の受付等）
- ③ 市民公益活動団体、ボランティア等に関する情報提供、案内
- ④ 報道機関へのイベント情報提供
  - ア 長野市民新聞「市民とNPOのひろば」への取材記事、イベント情報提供
  - イ FMぜんこうじ「長野市広報ふれあいガイド」へのNPO団体出演のコーディネート
- ⑤ 市内各種団体の取材、ヒアリング等による実態把握

#### <事業目標>

- ・ 長野市内のNPO情報を収集、整理、蓄積、発信
- ・ 情報の収集・発信に力を入れることで団体間の情報共有の充実を図る
- ・ ホームページを活用した情報発信の充実
- ・ SNS（フェイスブック）を活用した情報の受発信を充実させ集客を図る
- ・ センターとしての相談・コーディネート実績を重ね、センター周知につなげる

#### <事業実績>

- ① 取材訪問、窓口対応、マスコミなどを通し、あらゆる団体情報を収集、提供
  - ア センター機関誌「まんまる」年4回発行（4月／7月／10月／1月）  
発行部数各号 1,700部／配布件数 1,918件 平均480件  
※ホームページでバックナンバーを公開
  - イ 関係機関が発行する機関紙の受付件数 256件（2020/4～2021/3）
  - ウ ホームページ・フェイスブックについては随時更新  
※ホームページを活用しての情報発信件数 400件  
／アクセス件数 66,219件（2020/4～2021/3）  
※フェイスブックを利用しての情報発信件数 720件  
／アクセス件数 90,802件（2020/4～2021/3）
  - エ 市民公益活動団体の情報ファイルの作成・整理

オ 助成金情報の提供

ホームページを活用しての情報発信件数 89 件 (2020/4~2021/3)

② 情報掲示板、関係図書の管理

ア チラシ、広報紙の受付件数 チラシ 272 件 (種類) 【前年比 42.0%】

イ 図書貸出件数 7 件

③ 市民公益活動団体、ボランティア等に関する情報提供、案内

窓口情報提供件数 1,913 件 / 電話・メール情報提供件数 2,970 件 / 訪問情報提供件数 250 件

【合計 5,149 件 (前年比 115.0%)】

④ 報道機関へのイベント情報提供

ア 市民新聞「市民とNPOのひろば」へのイベント取材記事、イベント情報提供 (毎月第1火曜日掲載) 及び市民新聞「市民とNPOのひろば」編集委員会に毎月参加

【まんまる交差点 取材記事】

【イベント情報提供数】

4月 鬼Tで鬼無里を応援	18
5月 地域まるごとキャンパス	16
6月 NPO法人にっこりひろば	18
7月 津野復光隊	17
8月 津野神楽保存会	22
9月 夏休み自由研究こうりゃくダンジョン×NPO	22
10月 NPO法人さとやまネット信州	24
11月 NPOカフェまんまる「ミドルの居場所」	22
12月 NPO法人ライフデザインセンター	23
2月 信州なでしこ隊	27
3月 エシカル消費・フェアトレード交流会	28

イ FMぜんこうじ「長野市広報ふれ愛ガイド」へのNPO団体出演コーディネート

【出演団体】 (出演依頼 / 日程調整 / 内容の打合せ等)

4月 / MHOKエムホック

10月 / 回る回るハウス実行委員会

5月 / おっきいて

11月 / にっこりひろば

6月 / 多文化共生センター

12月 / 松代復興応援実行委員会

7月 / ゆる〜いおっさんの会

1月 / ながの子ども虐待防止オレンジリボン

8月 / さとやまネット信州

たすきリレー実行委員会

9月 / ワカホーム

2月 / ながの電気クラブ

3月 / 信州なでしこ隊

⑤ 市内各種団体の取材、ヒアリング等による実態把握

訪問件数 118 件 (前年比 95.9%)

市内各種団体にはイベント取材等に合わせて訪問、住民自治協議会へのヒアリングも実施

# NPOカフェ まんまる



市民協働サポートセンターホームページ



市民協働サポートセンターFacebook



市民協働サポートセンターYouTube 「しみかつ情報局」



市民協働サポートセンターInstagram「npocafe\_manmaru」



チラシ閲覧・配架・活動掲示コーナー  
「スクランブルひろば」



■長野市民新聞「市民とNPOのひろば」  
毎月第一火曜日 年12回掲載

# NPOカフェ **ままる**



春号：配布 475件

特集 7月のレジ袋有料化に向けて



夏号：配布 479件

特集 「終活」って必要？いつから始める？



秋号：配布 486件

特集 「働き方が変わると生き方も変わる?」



冬号：配布 478件

特集 「地域おこし協力隊って何してる人?」

## <評価と課題>

情報の収集・提供業務では、これまでと同様にITと紙ベースを活用しつつ、より効果的な情報提供について検討、インスタグラムの立ち上げなども試みた。

ITでは、ホームページやフェイスブック等の媒体を活用し、新鮮な情報の発信を継続。ホームページへのアクセス件数は前年比130.3%の66,219件（前年50,814件）、フェイスブックページへの年間アクセス件数は90,802件（昨年140,638件）、前年比64.6%となった。ホームページのアクセス数が増えたことについては、年度途中からFacebookページとの連動方法を変えたことで、Facebookからホームページへアクセスした数によるものと思われる。フェイスブックについては、減少が著しく、発信ツールとしての限界もあるのではないかと。また、一因としては昨年度の災害時にボランティア情報などへのアクセスが集中したこともありかなりの増であったが、今年度は新型コロナウイルスの影響でイベントなどが激減、発信できる情報が極端に減少したことが原因として挙げられる。

4月当初全国的な動きの中で、長野県NPOセンターが実施したコロナ禍における活動状況のアンケートには、当センターからの発信に答えての回答も多く、関係する団体のグループ内では活発な情報交換もあった。また、もんぜんぷら座休館中に急遽立ち上げたYouTubeチャンネルによる「コロナに負けるなしみかつ情報局」（21回配信）には通算900件のアクセスがあり、休止や中止を余儀なくされた市民活動団体とのコミュニケーションツールとして効果があったのではないかと。このような報告に挙がらない効果をどのように見せていくのかは今後の課題としたい。長野県NPOセンターのホームページのリニューアルに伴って当センターホームページの記事がリアルタイムで表示されるようになったことも今後効果として期待している。

ITでの発信はしつつ、昨年に引き続き、事業の集客はできるだけピンポイントに個別でのお誘いや、メールワイズの一斉メールなど「あなたに向けた発信です」という形での広報を心がけた。

紙ベースでは、機関紙「まんまる」（年4回）、長野市民新聞「市民とNPOのひろば」誌面（年12回）を通してセンターの情報はもちろん、社会の課題やNPOの活動状況を広く発信。特に機関誌まんまるは毎号その時々々の社会の動きをとらえた特集を組んでおり、特集に関連する機関へも配布した。県内外の団体から「いつも特集を楽しみにしている」というフィードバックもあり、さらに充実した記事を企画していきたい。送付している団体から、講座などについての問い合わせ・申し込みが来ている一方で、新型コロナウイルス感染症拡大による事業中止、もんぜんぷら座スクランブルひろばの使用停止の影響で残数が多いものがあり、今後イベントなどで配布をしていく。

センターの入り口や掲示コーナーについて、入りやすく、利用しやすいように、レイアウトを変更したことで、センターの中が良く見えるようになった。しかし、コロナ禍で団体や地区の活動が停滞したこともあり、チラシなどの受け取り件数が激減、市民新聞への掲載情報集めにも苦慮した。

市内各種団体への訪問件数は、前年比95.9%。新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動自粛となったことが要因だが、年度後半から住民自治協議会への訪問も再開している。来年度はできればセンターとあまりつながりのないNPO等に積極的に訪問し、活動状況の把握に努めたい。

**(2) 市民公益活動団体、地縁組織、住民自治協議会、企業、NPO等を対象とした民間相互の継続的な活動支援、また、行政との協働促進業務**

**<事業内容>**

- ① 活動団体のネットワークの強化・拡大
  - ア 課題解決に向けた団体間の交流事業の企画・運営
  - イ 活動に係る新たな担い手の発掘
- ② 相談及び調整
  - ア 活動団体等からの各種相談受付、マネジメントに関する支援
  - イ 団体・個人のニーズに合わせたコーディネート
- ③ 団体・個人の育成
  - 各種講座の開催
    - ア 活動団体等の成長・自立につながる情報等を提供する講座
    - イ 地域内外から活動資金の調達に関する講座
    - ウ 活動団体などのコンプライアンスなどに関する講座
    - エ 情報発信（マスコミ向け、ホームページなど）に関する講座

**<事業目標>**

- ・ ながのまちづくり活動支援事業補助金交付団体へ、積極的な支援を行う
- ・ NPOカフェまんまる、地域まんまる、まちむら交流会など、それぞれのイベントの特徴を生かしながら、参加対象者の拡大を図り、人と人とのつながりを広げていく
- ・ 参加者のニーズに沿った講座を企画していく
- ・ 行政、地域、企業との人的ネットワークの形成

**<事業実績>**

- ① 活動団体のネットワークの強化・拡大
  - ア 課題解決に向けた団体間の交流事業の企画・運営
    - i <<NPOカフェまんまる・地域まんまる>>
      - コロナ感染防止対策による延期または中止イベント
      - ・ 4月29日（水）「回る回るハウス」・・・・・・・・中止
      - ・ 5月23日（土）「定年後は何をする？」・・・・8月に延期

	タイトル		参加人数
	期 日	会 場	
	企画団体		
1	台風19号災害から復興へ 語ろう！つながろう！		92
	7月5日（日）	長野市ふれあい福祉センター	
	長野市災害時支援ネットワーク		

2	定年後は何をする？		22
	8月1日(土)	もんぜんぷら座 304 会議室	
	ゆる〜いおっさんの会		
3	ケータイにねむるリサイクルのヒミツをさがせ！		38
	8月4日(火)	もんぜんぷら座 304 会議室	
	ソフトバンク(株) 直富商事(株)		
4	秘密基地で焚き火会		24
	9月12日(土)		
	NPO法人さとやまネット信州		
5	ミドルの居場所		8
	10月16日(金)	もんぜんぷら座 304 会議室	
6	地域まんまる in 川中島 「地域交通を考える」		62
	11月27日(金)	川中島町多目的ホール	
	川中島町住民自治協議会		
7	共感から寄付は生まれる！		15 内オンライン2
	12月19日(土)	市民協働サポートセンター	
8	地域まんまる with 地域おこし協力隊「地域おこし協力隊と出会って・つながって・コラボしよう」		44
	2月10日(水)	篠ノ井交流センター	
9	パレンタイム DAY にチョコっと市民活動		7
	2月14日(日)	Cublue	
	Cublue		
10	ミドルの居場所		6
	3月13日(土)	もんぜんぷら座 304 会議室	
<b>合計</b>			<b>318</b>

ii 協働事業のサポート（ながの協働ねっと事業ほか）

■ながの協働ねっと理事会（実施回数 年9回／述べ人数 60人）

【主な関係団体】

- NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会
- NPO法人食育体験教室・コラボ
- NPO法人長野県NPOセンター

- NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト
- NPO法人ヒューマンネットながの
- NPO法人ながの電気クラブ
- NPO法人長野スポーツコミュニティクラブ東北

■忍者をふやそう大作戦（実施回数 年1回）

3月25日（木）ハート手裏剣寄付審査会 理事3、団体3、一般1 参加者計7人  
2団体に寄付が決定

■長野市民新聞「市民とNPOのひろば」編集委員会（実施回数 年11回）

参加者述べ 21人

今年度も、編集委員を設けず、参加したい人が自由に参加できるように企画した

■夏休み自由研究こうりゃくダンジョン×NPO

夏休みに子どもたちがNPOと出会う機会を提供 6プログラムを提供

■Talk&Talk（会員交流会）

1月24日（日）「ウイズコロナ アフターコロナ 考えている頃なう？」

参加者19人（内オンライン10人）

《コミュニティブリッジ》

1	テーマ		参加人数
	期 日	会 場	
	コロナに悩んでいる頃なう！		5
	6月2日（火）	市民協働サポートセンター	内オンライン5
合計			5

＜参画団体＞

公益財団法人長野県長寿社会開発センター

長野市ボランティアセンター

イ 活動に係る新たな担い手の発掘

i 《まんまるサロン・発送サロン・おじさんまんまるほか》

コロナ感染防止対策による延期または中止イベント

- ・4月25日（土）おじさんまんまる・・・中止
- ・4月28日（火）ボランティアサロン・・・中止
- ・5月26日（火）ボランティアサロン・・・中止

1	テーマ		参加人数
	期 日	会 場	
	機関誌まんまる(4/1号)発送作業		8
	3月28日（土）	市民協働サポートセンター	

2	ボランティアサロン		3
	6月23日(火)	市民協働サポートセンター	
3	機関誌まんまる(7/1号)発送作業		7
	6月29日(火)	市民協働サポートセンター	
4	ボランティアサロン		6
	7月28日(火)	市民協働サポートセンター	
5	ボランティアサロン		6
	7月26日(日)	市民協働サポートセンター	
6	ボランティアサロン		2
	8月25日(火)	市民協働サポートセンター	
7	おじさんまんまる		7
	9月20日(土)	NPO法人飯綱高原よっこらしょ	
8	ボランティアサロン		2
	9月22日(火)	市民協働サポートセンター	
9	機関誌まんまる(10/1号)発送作業		5
	9月30日(水)	市民協働サポートセンター	
10	おじさんまんまる		8
	10月13日(火)	市民協働サポートセンター	
11	ボランティアサロン		9
	10月27日(火)	市民協働サポートセンター	
12	おじさんまんまる		12
	11月7日(土)	市民協働サポートセンター	
13	ボランティアサロン		2
	11月24日(火)	市民協働サポートセンター	
14	ボランティアサロン		10
	12月19日(土)	市民協働サポートセンター	
15	ボランティアサロン		7
	12月12日(土)	市民協働サポートセンター	
16	機関誌まんまる(1/1号)発送作業		8
	12月27日(日)	市民協働サポートセンター	
17	おじさんまんまる		11
	1月16日(土)	市民協働サポートセンター	
18	ボランティアサロン		2
	1月26日(水)	市民協働サポートセンター	

19	おじさんまんまる		14
	2月13日(土)	市民協働サポートセンター	
20	ファシリテーター養成講座同窓会		6
	2月18日(木)	市民協働サポートセンター	
21	ボランティアサロン		5
	2月23日(火)	市民協働サポートセンター	
22	おじさんまんまる		15
	3月28日(土)	市民協働サポートセンター	
23	ボランティアサロン		6
	3月23日(火)	市民協働サポートセンター	
24	機関誌まんまる(4/1号)発送作業		3
	3月29日(月)	市民協働サポートセンター	
<b>合計</b>			<b>164</b>

ii 《まちむら交流会》 コロナ感染防止対策により中止

まちむら交流会 in 七二会 七二会たからものさがし「竹取物語」3回シリーズ  
・6月20日(土)、9月26日(土)、11月・・・全て中止

iii 地域まるごとキャンパス (ながの協働ねっと)

地域まるごとキャンパス

(実行委員会 年5回/33人参加 フィールド提案数 19団体 28件

説明会・イベントを含めた述べ参加人数 350人 プログラムに参加した学生101人)

【主な関係団体】

- NPO法人長野県NPOセンター
- NPO法人ヒューマンネットながの
- NPO法人みどりの市民
- 社会福祉法人長野県社会福祉協議会
- 北信教育事務所
- 一般社団法人子育てみらいネット
- ながの電気クラブ
- ながの環境パートナーシップ会議
- ユースリーチ

期日	内容	参加人数
4月6日(月)	実行委員会	11
4月26日(日)	新学期応援フェス	37

5月 9日(木)	学生説明会(オンライン)	11
5月 13日(月)	学生説明会(オンライン)	14
6月 16日(火)	実行委員会	9
7月 17日(金)	学生説明会(オンライン)	12
8月 27日(木)	学生説明会(オンライン)	13
8月 21日(金)	学生説明会(オンライン)	14
9月 5日(土)	学生説明会(オンライン)	1
9月 9日(水)	岡学園フィールド説明会	3
9月 16日(水)	岡学園フィールド説明会	3
9月 17日(木)	学生説明会(オンライン)	15
9月 23日(水)	岡学園フィールド説明会	3
12月 11日(金)	長野市商工労働課打合せ	3
12月 11日(金)	地球環境高校打合せ	1
12月 14日(月)	長野県立大学学生説明会	21
1月 14日(木)	地球環境高校打合せ	1
1月 21日(木)	実行委員会	7
2月 7日(日)	高大生フェス	148
2月 24日(水)	打合せ	2
3月 1日(月)	実行委員会	6
3月 5日(金)	学生説明会(オンライン)	11
3月 11日(木)	学生説明会(オンライン)	4
	<b>延べ</b>	<b>350</b>



NPO カフェまんまる「ミドルの居場所」



NPO カフェまんまる「寄付の教室®」



地域まんまるin川中島「地域交通を考える」



地域まんまる with 地域おこし協力隊



ボランティアサロン



協働ねっと Talk&Talk



地域まるごとキャンパス 学生説明会



地域まるごとキャンパス学生プログラム  
キセキのみそ復活！プロジェクト

② 相談及び調整

ア 活動団体等からの各種相談受付、マネジメントに関する支援

イ 団体・個人のニーズに合わせたコーディネート

相談件数 368 件（窓口 185 件／電話等 165 件／訪問 18 件）／（前年比 147.8%）

③ 団体・個人の育成

各種講座の開催

ア 活動団体等の成長・自立につながる情報等を提供する講座

《市民活動いりぐち講座》

	日時	参加人数
1	4月27日(土)13:30~16:00 ※新型コロナウイルス感染症対策で中止	0
2	6月24日(水)18:30~21:00	1
3	9月30日(水)18:30~20:30	2
4	12月5日(木)13:30~16:00	1
5	2月24日(水)13:30~16:00	2
合計		6

《NPOステップアップ講座》

コロナ感染防止対策による延期または中止イベント

・5月23日(土)ファシリテーター養成講座①・・・8月に延期

	タイトル／内容		参加人数
	日時	会場	
	講師		
1	ファシリテーター養成講座①/会議で話し合う		15 内オンライン5
	8月27日(木)13:30~16:30	もんぜんぷら座 304 会議室	
	ファシリテーション・ラボ信州 河合 宗寛氏		
2	ファシリテーター養成講座②/チームで協働する		13 内オンライン4
	9月17日(木)13:30~16:30	もんぜんぷら座 304 会議室	
	ファシリテーション・ラボ信州 河合 宗寛氏		
3	ファシリテーター養成講座③/定期的に集う		11 内オンライン2
	10月15日(木)13:30~16:30	もんぜんぷら座 304 会議室	
	ファシリテーション・ラボ信州 河合 宗寛氏		
4	ファシリテーター養成講座④/合意形成を体験する		17 内オンライン0
	11月12日(木)13:30~16:30	もんぜんぷら座 304 会議室	
	ファシリテーション・ラボ信州 河合 宗寛氏		

5	ファシリテーター養成講座⑤/合意形成を支援する		16 内オンライン5
	12月17日(木)13:30~16:30	もんぜんぷら座 304 会議室	
	ファシリテーション・ラボ信州 河合 宗寛氏		
6	ファシリテーター養成講座⑥/“場”をデザインする		17 内オンライン5
	1月14日(木)13:30~16:30	もんぜんぷら座 304 会議室	
	ファシリテーション・ラボ信州 河合 宗寛氏		
<b>合計</b>			<b>89</b> 内オンライン 21

長野県NPOセンターとの共催講座

	タイトル/内容		参加人数
	日時	会場	
	講師		
1	SDGs 集中講座「カードゲーム 2030SDGs」		19
	10月9日(木)13:30~16:30	トイーゴ生涯学習センター	
	SDGsワークショップデザイナー 藤澤 重徳氏		
2	SDGs 集中講座「SDGs de 地方創生」		30
	10月9日(木)18:30~21:00	トイーゴ生涯学習センター	
	長野県NPOセンター事務局次長 小林 達也		
3	SDGs 集中講座「カードゲーム 2030SDGs」		20
	10月23日(金)15:00~18:00	トイーゴ生涯学習センター	
	SDGsワークショップデザイナー 藤澤 重徳氏		
4	SDGs 集中講座「SDGsアウトサイドインカードゲーム」		35
	10月23日(金)18:30~21:00	トイーゴ生涯学習センター	
	クリエイティブラボ 岡田 義彦氏		
<b>合計</b>			<b>104</b>

イ 地域内外から活動資金の調達に関する講座

	タイトル/内容		参加人数
	日時	会場	
	講師		
1	レッツトライ! 助成金		16
	9月 5日(土)13:00~15:30	もんぜんぷら座 304 会議室	
	長野県NPOセンター 粟津知佳子氏		

2	会計のいろはシリーズ／会計事務お悩み相談会		3団体 5
	3月20日(土)13:30~16:00	もんぜんぷら座 601 会議室	
	税理士法人成迫会計事務所 北原 正明氏		
<b>合計</b>			<b>21</b>

ウ 活動団体などのコンプライアンスなどに関する講座

	タイトル／内容		参加人数
	日時	会場	
	講師		
1	コミュニティマネジメント いろはのは /With コロナ時代の市民活動・コミュニティ運営の実践		29 内オンライン 15
	1月24日(日)13:00~16:00	もんぜんぷら座 304 会議室	
	NPO法人CRファクトリー代表理事 呉 哲煥氏		
<b>合計</b>			<b>29</b>

エ 情報発信（マスコミ向け、ホームページなど）に関する講座

	タイトル／内容		参加人数
	日時	会場	
	講師		
1	やみつきになる広報ワンツースリー！／楽しくチラシづくり始めよう！		オンライン 7
	5月16日(木)13:30~16:00	市民協働サポートセンター オンライン開催	
	ソーシャルデザインセンター 寺澤順子氏		
2	やみつきになる広報ワンツースリー！／使いたくなる写真の撮り方+SNS活用講座		7 内オンライン4
	6月13日(土)13:30~16:00	市民協働サポートセンター及びオンライン	
	カメラマン 立岡淳志氏		
3	やみつきになる広報ワンツースリー！／動画で自分PRタイム		4
	7月11日(土)13:30~16:00	もんぜんぷら座 304 会議室	
	ソーシャルデザインセンター 寺澤順子氏、カメラマン 立岡淳志氏		
<b>合計</b>			<b>18</b> 内オンライン 11



ファシリテーター養成講座



レッツトライ！助成金



広報講座「やみつきになる広報ワーツースリー！」



SDGs 集中講座

## <評価と課題>

ながのまちづくり活動支援事業に関わる支援業務としては、応募事前相談から団体と関わることで関係性を構築し、いくつかの団体は、取材活動や広報でのサポートをした。採択されなかった団体にも他の助成金の案内なども行った。

交流事業「NPOカフェまんまる」では、新たに市民活動にコンタクトが少ない年代の交流会を企画したり、センター以外の会場での開催も試みた。スタッフそれぞれのつながりも駆使しながら新たな協働先を開発できたのではないかと。今後も複数団体をコーディネートして新たな活動を作り出していきたい。まちむら交流会は、七二会地区で活動する「七二会いいとこ発見委員会」との協働での開催を予定したが、コロナ禍で人を集めることに地域側が不安を感じていたことからプログラムを中止せざるを得なかった。

相談件数は、前年比 147.8%の 368 件。継続的に関わる必要がある相談が増えたことが要因かと思われる。スタッフそれぞれが外部との関係づくりをしてきたこともあり、特に企業などからも相談が増加している。企業の社会貢献やSDGsに関連した相談もあり、スタッフが学んでいく必要性

を感じている。相談内容では新型コロナに関連するもの、またコロナ禍での活動や運営に関するものなどもあったことは特徴となっている。個人からの相談については、まずは受け止め、具体的な団体につなぐだけでなく、じっくりとその人のやりたいことを聞き出し、センター主催のサロンや講座・交流会などに参加を促し、そこでつながりを作ってもらうことにも力を入れた。いずれにしても一つの相談には丁寧に時間をかけてコーディネートできるようスタッフのスキルも上げていきたい。

講座について、NPO初歩講座を市民活動全般について学ぶ内容に変更し、タイトルも変えてみた。実際に受講者は法人設立まで視野に入った人はあまりなく、「何かしたい」「ボランティアやNPOについての知識を得たい」という人が多く、ひとりひとりのニーズに対応できるような内容を心がけた。また、新しい挑戦として「ファシリテーター養成講座」を6回シリーズで開催。ファシリテーションラボ信州の河合宗寛さんとの協働事業として破格の講師料で開催することができた。6回すべて受講した人もいて、講座そのものがコミュニティとしての機能を持ったことは予想外の効果。同窓会を定期的に関き、そこから連携や協働が生まれる可能性も見えた。

コロナ禍でオンラインやハイブリッドでの開催にもチャレンジし、スタッフのスキルアップもつながった。また、オンライン開催の利点として市外からの参加があり、茅野市市民活動サポートセンターは連続で参加、来年度河合さんを講師に迎えると聞いている。秋には長野県NPOセンター・ながの協働ねっととの三者主催でSDGs集中講座を開催。特に企業などからの参加が目立ち関心の高さが伺われ、企業がNPOとの協働を視野に入れていることもわかった。これを機に関係を作って行きたい。センターとしては申し込みの受付と当日の運営などを主に担当し、センターの予算を使わずに大きな実績を創れたことも成果だった。

講座・交流会の参加者数について、コロナ禍でもぜんぶら座会議室など会場に人数制限があったがオンラインなどの活用で合計で300人弱をかくほできた。

「まんまるサロン」は、定番となった3種のサロンを定期的で開催。常連で新聞バッグを作る男性がさまざまな団体や企業から依頼をもらって教えに行くなど、個人の活動の広がりが見え、SDGs推進にもつながる動きが出てきている。新聞バッグについては市内の団体からの要望もあり、サロンに来ている人たちが楽しみながら市民活動の一端を担うことにもつながった。また、定年前後の男性のサロンは他団体との連携も始まっており、今後の広がりが期待される。センターを訪れる若者と高齢者などが同じ空間で共存する姿も見られるようになり、多様な人がセンターのまんまるテーブルで出会い、活動に参画するきっかけづくりもできている。

### (3) 市民公益活動の促進を図るためのその他の事業など

#### <事業内容>

- ① 市民公益活動団体の活動資金調達のための物品販売支援
- ② その他
  - ア スタッフ研修
  - イ スタッフ全体ミーティング
  - ウ その他必要な事業

<事業目標>

- ① 市民団体から活動資金調達のための商品展示の要請があった場合、展示スペースを提供し、陳列する。
- ② スタッフのスキルアップ及びスタッフ間の情報を共有。

<事業実績>

- ① 市民公益活動団体の活動資金調達のための物品販売支援  
展示スペースの提供／利用団体 24 団体
- ② その他  
ア スタッフ研修

期日	内容
6月30日(火)	地域づくり・ボランティア講座第1回
7月1日(水)	災害ボランティアコーディネーション養成講座
8月24日(火)	長野県シニア大学オンラインおしゃべり楽校(オンライン)
8月29日(土)	地域づくり推進オンライン研修
8月29日(土)	まちチャレオンラインセミナー
9月4日(金)	NPO支援センター初任者研修会 2020 1回目(オンライン)
9月16日(水)	NPO支援センター初任者研修会 2020 2回目(オンライン)
9月25日(金)	行政とNPOの対話促進講座第1回(オンライン)
9月27日(日)	ボランティアコーディネーション力検定3級直前講座
10月2日(金)	行政とNPOの対話促進講座第2回(オンライン)
10月6日(火)	SDGs市民カレッジ研修(オンライン)
10月16日(金)	行政とNPOの対話促進講座第3回(オンライン)
10月17日(土)	ソーシャルライター養成塾(オンライン)
10月20日(火)	持続可能な社会づくりに向けた教育の新しい在り方研修
10月27日(火)	地域づくりの支え手入門講座第1回(オンライン)
10月27日(火)	SDGs市民カレッジ研修(オンライン)
11月10日(火)	SDGs市民カレッジ研修(オンライン)
11月17日(火)	SDGs市民カレッジ研修(オンライン)
11月18日(水)	社会貢献ファシリテーター入門講座
11月23日(月)	ファシリテーター入門講座(オンライン)
11月30日(月)	地域づくりの支え手入門講座第3回
12月1日(火)	SDGs市民カレッジ研修(オンライン)
12月14日(月)	地域づくりの支え手入門講座第4回
12月15日(火)	SDGs市民カレッジ研修(オンライン)

12月15日(火)	広報スキルセミナー(オンライン)
12月17日(木)	NPO法人運営セミナー(オンライン)
12月17日(木)	ZOOMスキルセミナー(オンライン)
12月22日(火)	門前まちづくりサロン(オンライン)
1月26日(火)	NPOのための組織評価活用入門(オンライン)
1月30日(土)	SDGs全国フォーラム長野2020(オンライン)
2月3日(水)	ソシオマネジメント講座(オンライン)
2月4日(木)	ソシオマネジメント講座(オンライン)
2月5日(金)	長野県社会福祉協議会講座(オンライン)
2月23日(木)~28日(日)	全国ボランティアコーディネーター研究集会(オンライン)
2月26日(金)	ソーシャルビジネスセミナー(オンライン)
3月4日(木)	SDGs de 地方創生ファシリテーター養成講座(オンライン)
3月9日(火)	地域づくりを担うコーディネーターのためのオンラインサロン

イ スタッフ全体ミーティング

- ◆ 毎月2~3回開催
- ◆ FBメッセージ、チャットワーク、Line を利用し随時連絡事項をスタッフ全員で共有

ウ その他必要な事業

- ◆ 市民活動支援課との定例会議(毎月1回)
- ◆ その他関係団体プロジェクトへの参加
  - ・ もんぜんぷら座運営委員会
  - ・ もんぜんぷら座消防訓練
  - ・ 長野市行政改革推進審議会
  - ・ 生活支援体制整備事業第一層協議体会議
  - ・ 小田切生活支援体制整備協議体小田切和輪話の会
  - ・ 長沼地区支援者会議
  - ・ 長野市災害ボランティア委員会豊野連携会議
  - ・ 令和2年度「ながのまちづくり活動支援事業」中間報告会・予備審査会・審査会
  - ・ 岡学園フォーラム
  - ・ 篠ノ井高校SDGsワークショップサポート
  - ・ 長野清泉女子短期大学「NPO論I」講師
  - ・ 中間支援組織オンライン交流会
  - ・ 長野県長寿社会開発センター佐久地域コーディネーター研修会
  - ・ 小規模多機能自治研修(大岡)
  - ・ 小規模多機能自治研修(戸隠)
  - ・ 芋井地区小規模多機能自治プロジェクト

- ・ つよあたアライアンス会議
- ・ 三陽管内地域福祉ワーカー連絡会議
- ・ NPO法人ライフデザインセンター講座講師
- ・ 飯綱町社会福祉協議会講座講師
- ・ 第一生命株式会社長野支社紙バック講習会
- ・ 信州環境カレッジ交流会
- ・ ちくま未来戦略サロンカードゲームで学ぶSDGs
- ・ 長野県災害時支援ネットフォーラム
- ・ 長野県立大学宮下ゼミ
- ・ コミュニティーフォーラム 2021

◆ 他団体への会議スペース提供

貸出件数 45 件／利用人数 172 人

◆ 報道機関からの取材

期日	報道機関	内容
6月9日(火)	読売新聞長野支局	スマイルマスクプロジェクト
6月11日(木)	長野市民新聞	長野市域災害時支援ネットワーク交流会
6月24日(水)	信越放送ラジオ	長野市域災害時支援ネットワーク交流会
7月10日(金)	長野市民新聞	NPOカフェまんまる「定年後は何をする？」
7月14日(土)	信濃毎日新聞	NPOカフェまんまる「定年後は何をする？」
7月13日(金)	信濃毎日新聞	地域まるごとキャンパス
8月17日(月)	長野市民新聞	ステップアップ講座「レッツトライ助成金」
11月2日(月)	信越放送テレビ	ゆる〜いおっさんの会
11月24日(火)	長野市民新聞	寄付の教室®
12月19日(土)	長野市民新聞	寄付の教室®
2月10日(水)	長野市民新聞	地域まんまる with 地域おこし協力隊
2月14日(日)	長野朝日放送・信濃毎日新聞	バレンタインDAYにチョコっと市民活動
3月28日(日)	長野市民新聞	おじさんまんまる

◆ 関係団体からの視察受け入れ

7月9日(木) 松本市民活動センター 3人

◆ スマイルマスクプロジェクト主催

延べ14人から435枚の手作りマスクが集まり必要な機関に配布した。

主な配布先

- ・ 古牧子どもプラザ 100枚
- ・ 地域ささえあいセンター70枚
- ・ 徳間児童センター 60枚
- ・ 朝陽子どもプラザ 50枚

### <評価と課題>

NPOを中心としたネットワーク組織「ながの協働ねっと」の事務局として、各プロジェクトを通して、多種多様な団体・市民が創り出す協働の輪の中でコーディネーターの役割を担っている。一昨年から高校生以上の学生と市民活動とをつなぐプロジェクト『地域まるごとキャンパス』を実施。ながの協働ねっと内外からフィールド募集し、19体から28事業(前年比70%)を採択。101名(前年比48.9%)の学生が実際に各フィールド活動に参加した。活動を通して各団体の活動趣旨に共感し、継続的な活動につながっている学生もいることから、学生の市民活動への理解促進にも一役かうことができたと感じている。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、第一期の募集については休校などの影響を大きく受けた。また、県立大学を含めた大学は授業再開まで時間を要したことから、高校生の参加者は大きく増えたが、全体の参加者は半減してしまった。

1月に開催した会員交流会「Talk&Talk」では、コロナ禍での活動継続についての意見交換をした。それぞれが工夫しながら継続していたが、どうしても中止せざるを得ない活動もあり、苦慮する姿があった。しかし、参加者の総意は「コロナ禍でも活動を停めてはいけない」というものだった。センターとしてもながの協働ねっとと共に新しい考え方や活動継続のための情報共有をしていきたい。

スタッフの育成では、新人1名に対する研修の機会を増やし、ボランティアコーディネーション力検定3級を取得した。コロナ禍でさまざまな講座がオンライン化し、交通費や参加費を節約できたこともあり予定していたよりも参加機会を確保できた。研修を通してつながった講師や参加者との交流もはじまりつつある。

各プロジェクトへの参加では、昨年度連続開催予定だった小規模多機能自治講座を地域包括ケア推進課が開催することになり、以前から相談などで関心の高かった大岡地区と住民自治協議会第5ブロックの研修をコーディネート。それぞれ現場にもサポートに赴き、今後の関係づくりに努めた。大岡地区からは来年度も継続して小規模多機能自治の取り組みをするのでサポートしてもらいたいとの意向がある。

スタッフ研修については、オンライン受講が可能になり、予定していた交通費をさらに研修費に回すことができ、バラエティに富んだ研修に参加することができた。今後もオンライン・リアルいずれも大切に、他団体や他県の間接支援センターなどとの情報交換につなげていきたい。

コロナ禍での活動として、できるだけ市民活動・市民参加を止めないために企画した「まんまるスマイルマスクプロジェクト」は思いのほか手ごたえを感じることができた。市内各児童センターなどに届けたり、子育て支援団体から「作り方を教えてもらいたい」という相談があり作りてをつないだり、小さな試みではあったが共感の輪が広がる実体験を得た。

2019年東日本台風の被災地支援については、現場とのつながりを切らないために、被災状況の写真展の企画や機関誌・市民新聞の取材などを心がけた。

## (4) 施設管理業務

### <事業内容>

- ① 利用統計資料の作成

- ② 情報交換スペースの管理
- ③ 備品類の管理

#### <事業目標>

- ・ 窓口業務における利用者数の増加
- ・ 利用者によるセンターの評価向上
- ・ 利用しやすい演出と情報の鮮度を保つ
- ・ 他の機関とも広くつながりを持つ

#### <事業実績>

- ① 月末に 利用統計資料を作成し、担当課へ提出している  
総利用者数 7,114 人(内センター外 1,039 人)
- ② 市内外の公益活動団体に関するチラシ・広報誌を収集、陳列
  - ・ センター内の2つの円卓は、その存在が認識されてきており、日々の情報交換スペースとして、団体の会議や交流イベントにも頻繁に利用された。
  - ・ 市内NPO法人については設立順・分野別に情報を整備し、内閣府の「NPO法人ポータルサイト」の情報をリンクさせホームページ上で公開
  - ・ 団体別にファイルを作成し、チラシ、団体情報をファイリングしいつでも手に取れるようにしている(市内NPO法人・ながのまちづくり活動支援事業の補助金交付団体については、個別のファイルを維持管理し、新設団体についてはファイルを追加)
- ③ 備品類の管理

#### <評価と課題>

センター利用者数は 7,114 人（地域まるごとキャンパスに参加した学生 101 人、YouTube 視聴回数 900 は含まず・前年比 104.5%）とコロナ禍にも関わらず増えている。センター外が増えているのはリモートワークで自宅等でメールやメッセージなどで問い合わせを受けることが多かったため。

また、関係団体プロジェクトへの参加は昨年の 77.2%の 78 件。さまざまところで会議が中止に追い込まれたことと、被災地域での会議が住民主体となったことが影響している。しかし、相談内容は住民自治協議会、学校、企業などのかかわりが増え、今後のコーディネーションの幅は広がっている。

# カフェまんまる・プチまんまる 地域まんまる

# NPOカフェ まんまる

## 定年後は 何をやる?



“人生後半戦”の楽しみとは

定年後、どうしてる?

働く? 遊ぶ? なにする?

みんながもやもやしてる このテーマ!

オジメン同志のしゃべくりタイムに

お気軽にご参加ください!

定年だって  
まだまだ若い!



**日時** 8月1日(土) 13:30~16:00  
**場所** もんぜんぶら座 3階 304会議室  
**参加費** 無料  
**対象** もうすぐ定年の方、すでに定年を迎えた方!  
 定年前後の男性  
**定員** 15名  
**協力** 「ゆるーいおっさんの会」

「ゆるーいおっさんの会」は、昨年5月に開催した当講座に参加したメンバーがその後に加わりました。テーマは自分たちで考え、ゆるーく活動しています。

主催・お申込み  
 市民協働サポートセンター  
 Tel223-0051、npo@nagano-shimin.net

SDGs  
 17 GOALS  
 まんまるはSDGsを  
 推進しています



市民協働サポートセンターまんまる × NPO法人さとやまネット信州

## 秘密基地で焚き火会



疲れを癒し 人生を思い そして希望を胸に  
 ゆれる炎は... きつとあなたに 何かを語る!

**日時** 9月12日(土) 16時~20時

**開催場所** 「さとやま広場」長野市安茂里駅から車で約5分

**参加費** ~~300円(食料費込)~~ 無料

**定員** 20人(先着順)

**対象** 癒されたい人

**その他** 飲み物持参(酒類はNG) 食べ物の持込み自由

秘密基地につき地区は  
 参加者に後日お知らせします

**服装・持ち物** 歩きやすい靴、懐中電灯、タオル、帽子、長袖長ズボン

※雨天の場合は当日朝9時のご連絡とし、翌週9/19(土)に順延します。

企画協力: NPO法人さとやまネット信州  
 焚き火会運営のほか介護施設でのボランティア公演など、人々のこころの豊かさを  
 目指して活動しています。  
 ゆれる炎はリラックス時の脳波であるα波を増やす効果があるといわれています。

【主催・申込み先】 長野市市民協働サポートセンター  
 Tel 026-223-0051 e-mail npo@nagano-shimin.net



## 2020 10月16日 Friday あなたにとっての居場所とは? 16マンダルの居場所



家庭と仕事以外の場所「サードプレイス」。コミュニティカフェや趣味の場、習い事、ボランティアや市民活動など人それぞれです。居場所に求めるものは何か? どんな場所があれば嬉しいか? など参加者みんなでサードプレイスについて、ざっくばらんに話し合う座談会です。

**日時:** 2020年10月16日(金) 18:30~20:30  
**場所:** もんぜんぶら座 3階 304会議室  
**費用:** 参加無料 定員: 20名(要事前申し込み)  
**対象:** 30代~40代の男女

【申し込み・問い合わせ】  
 長野市市民協働サポートセンター(もんぜんぶら座3階)  
 TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052 MAIL:npo@nagano-shimin.net

## 地域の交通を 考える

地域が育つ、社会がよくなる



in 川中島

**とき** 11月27日(金)  
 13:30~16:00  
**ところ** 川中島町公民館  
 多目的ホール



今年度、川中島地区で開催する地域まんまるのテーマは「地域の交通」です。中社会になった長野市で、公共交通の衰退は、高齢者や障害者にとって課題となっています。特に中山間地では人口の減少・少子高齢化により公共交通機関の撤退が深刻な事態となり、今後の地域存続を考える時に外せない問題となっています。すでに、公共交通の維持は行政の財政を圧迫し、このままですと、中山間地以外の住宅街などでも「地域の公共交通」は減少の一途をたどる可能性があります。

行政の動きや社会の動き、また、地区内の取り組みなどを共有し、公共交通を守るために市民ができることや、車に頼らない暮らし方についても一緒に考えてみませんか?

**対象** 住民自治協議会・NPO・行政など関心のある方  
**定員** 50人(先着順) **参加費** 無料



主催: 長野市市民協働サポートセンター  
 共催: 川中島町住民自治協議会・NPO法人エコライフプロジェクト信州  
 ■問い合わせ・申込み■  
 長野市市民協働サポートセンター TEL: 026-223-0051 FAX: 026-223-0052  
 e-mail: npo@nagano-shimin.net 右記QRコードからフォームでも申込みできます



# カフェまんまる・プチまんまる 地域まんまる

# NPOカフェ **まんまる**

NPOカフェまんまる

## 共感から 寄付は生まれる！

—寄付の教室®で寄付体験しよう—

国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）の重要性が広まる一方で、「自分は何ができるだろう」と考える人も増えてきています。たとえば、身近な社会貢献活動の一つである寄付は、どんなときにしますか？寄付は、「応援したい」「仲間になりたい」と思った活動への参加方法の一つでもあります。でも、寄付したいけどどこにしたらいいか悩んだり、推奨されているように思っていたことと違ったりして、結局寄付しなかったり、後悔したりしていませんか？今回『寄付の教室®』を通じて、自分の価値観を見つめて寄付先を選定し、寄付体験をします。

★日時：2020年12月19日(土)13:30~16:00(13:00~受付)

★場所：もんぜんぶら座3階 302会議室

★内容：第一部「寄付の教室®」寄付先を選定体験型ワークショップ  
第二部「共感したら寄付してみよう」身近なNPOの話聞いてみよう

★対象：寄付したことある・ないけど関心がある・寄付を受け付けている方や団体、寄付の教室®に興味のある方

★参加費：無料  
★定員：12人

※「寄付の教室®」ってなに？  
認定NPO法人日本ファンドレイジング協会(東京)が開発した体験学習プログラム。小〜大学生を中心に全国で7,800人以上が参加しています

主催・申し込み先：長野市市民協働サポートセンター  
026-223-0051 npo@nagano-shimin.net  
当日はマスクの着用・手洗いの消毒にご協力お願いします。

▼申し込みはこちら ▼HP

地域まんまる with 地域おこし協力隊

## 地域おこし協力隊と 出会って♡つながって♡コラボしよう！

2021年2月10日(水) 13:30~16:00  
篠ノ井交流センター 多目的ホール  
定員30人 参加費無料

地域おこし協力隊って何するの？ どこから来たの？ どんな人なの？  
市内の中山間地で地域を元気にしようと日々頑張っている地域おこし協力隊のみなさんは  
ながのの未来を一緒に創っていく仲間です。  
それぞれの「想い」を聞いて、一緒にできることを考えてみませんか？  
市民活動している方、企業、ちょっと興味あるというかなどどなたでも参加OK。

★当日の内容(予定)★

- ♪ ながの方でウルトラクイズ!!
- ♪ ここが「？」だよ長野市
- ♪ ここがすごいよ!!長野市
- ♪ ながへの想いを聞こう! 参加隊員からのメッセージ
- ♪ つながろう! 交流しよう

主催・問い合わせ・申込み  
市民協働サポートセンター TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052  
npo@nagano-shimin.net

申込みフォームはこちら

## バレンタインDayに チョコっと市民活動♡

ふだんの買い物は世界につながっています。環境や人、社会や地域、経済のことを考えて商品を選ぶことで、世界で起きている問題の解決につながります。そのキーワードになるエシカルやフェアトレードについて学び、自分の身近なところから行動を起こしませんか。当日は、フェアトレードの商品を扱う雑貨店 cublue(キューブルー)の熊澤厚子さんにお話しいただき、実際に商品を見ながら交流しましょう。

SDGsのゴールは一人ひとりの小さな一歩から。

■日時：2月14日(日)10:00~12:00

■場所：cublue(キューブルー)  
長野市西落合まちのみ 1503(セントラルスクエア向かい)

■参加費：550円(高付付きチョコ代金・1缶お持ち帰り)

イラクの小児がん支援や島の支援活動をするNPO法人日本イラク医療支援ネットワーク(JIM-NET)が、毎年冬学期末で出している高付付きチョコです。

■対象：興味があれば誰でもOK

■定員：7人

申し込み・問い合わせ：市民協働サポートセンター  
026-223-0051 npo@nagano-shimin.net  
または右の申し込みフォームから

協力：cublue(キューブルー)

## NPOカフェまんまる

# このままでいいの!? おれ(わたし)の今まで おれ(わたし)のこれから 少し話してみようか

~ミドルの居場所~

3月13日 土曜日

「今まで仕事も生活もなんとなく生きてきたんだけど、  
そういえば、昔は夢もあったよなあ。」  
「これからの自分はどうなりたいのかなあ?」

今までの自分を振り返って、これからの自分を考えてみたい…。  
そんなあなたと一緒に、今できることを探します。  
ちょっと話してみませんか?

日時：3月13日(土) 13:30~15:30  
場所：もんぜんぶら座3階 304会議室  
定員：15名  
費用：参加無料(事前申し込み)  
対象：30代~40代男女

【申し込み・問い合わせ】  
長野市市民協働サポートセンター(もんぜんぶら座3階)  
TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052 MAIL:npo@nagano-shimin.net

こちらのQRコードから  
お申し込みが可能です。

# いりぐち講座 地域まるごとキャンパス

# NPOカフェ まるまる

**NPOってなんだ？**  
一体何をすると？何をしてくれる人たち？  
ボランティアとNPO、何が違うの？  
法人設立してみたいけど・・・？

**NPOに興味・関心をおもちのみなさん！**  
本講座で、私たちと一緒に「NPO」を覗いてみませんか？  
新しい発見やワクワクを探しにいきましょう！

講師はセンタースタッフがめます。

**日時**  
9月25日(土) 13:00~16:00  
6月24日(水) 18:30~21:00

**場所** 市民共同サポートセンター (もんぜんぶら座3階)

**参加費** 300円

**誰でも歓迎！お持ちしています。**

**申し込み問い合わせ** / 長野市市民共同サポートセンター (もんぜんぶら座3階)  
TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052  
e-mail:npo@nagano-shimin.net

**市民活動いりぐち講座**

ながの協働ねっと Presents

## 地域まるごとキャンパス 2020

地域まるごとキャンパスは、学生のみなさんの**学び・体験・参加**を支えるプロジェクトです！

「あ！もとの地域（ながの）まるごと「キャンパス」として、私たちが地域活動のフィールドを提供します。学生がスタートするこの時期に、地域に飛び出し、学校では出会うことのできない仲間、大人たちと出会い、地域課題の解決に向けてアクションしよう！

**第1期プログラム説明会を開催します！**

1回目 5/9(土) 17:00~18:30  
2回目 5/13(水) 17:30~19:00

場所：長野市市民協働サポートセンター (長野市野田町1485-1 もんぜんぶら座3階)

募集対象者：① 高校生以上の学生 (25歳未満)  
★参加時に、登録手数料500円・ボランティア活動保険料350円が必要です。  
※会場、参加費は別途案内いたします。

プログラムの詳細・参加申し込みはこちらから  
地域まるごとキャンパス 公式WEBサイト

ユーザー参加者も募集中！  
2020年5月17日(木)まで、登録を完了させる必要があります。登録完了後、参加費を支払っていただきます。

ユーザー 公式WEBサイト

お問い合わせ先：地域まるごとキャンパス事務局 (長野市野田町1485-1 もんぜんぶら座3階)  
TEL:026-223-0051 npo@nagano-shimin.net

ながの協働ねっと Presents

## 地域まるごとキャンパス 2020

地域まるごとキャンパスは、学生のみなさんの**学び・体験・参加**を支えるプロジェクトです！

「あ！もとの地域（ながの）まるごと「キャンパス」として、私たちが地域活動のフィールドを提供します。学生がスタートするこの時期に、地域に飛び出し、学校では出会うことのできない仲間、大人たちと出会い、地域課題の解決に向けてアクションしよう！

**第2期プログラム説明会を開催します！**

1回目 7/17(金) 17:30~19:00  
2回目 8/6(木) 17:30~19:00

場所：長野市市民協働サポートセンター (長野市野田町1485-1 もんぜんぶら座3階)

募集対象者：① 高校生以上の学生 (25歳未満)  
★参加時に、登録手数料500円・ボランティア活動保険料350円が必要です。  
※会場、参加費は別途案内いたします。

プログラムの詳細・参加申し込みはこちらから  
地域まるごとキャンパス 公式WEBサイト

ユーザー参加者も募集中！  
2020年8月6日(木)まで、登録を完了させる必要があります。登録完了後、参加費を支払っていただきます。

ユーザー 公式WEBサイト

お問い合わせ先：地域まるごとキャンパス事務局 (長野市野田町1485-1 もんぜんぶら座3階)  
TEL:026-223-0051 npo@nagano-shimin.net

ながの協働ねっと Presents

## 地域まるごとキャンパス 2020

地域まるごとキャンパスは、学生のみなさんの**学び・体験・参加**を支えるプロジェクトです！

「あ！もとの地域（ながの）まるごと「キャンパス」として、私たちが地域活動のフィールドを提供します。学生がスタートするこの時期に、地域に飛び出し、学校では出会うことのできない仲間、大人たちと出会い、地域課題の解決に向けてアクションしよう！

**第3期プログラム説明会を開催します！**

1回目 9/5(土) 17:30~19:00  
2回目 9/17(木) 17:30~19:00

場所：長野市市民協働サポートセンター (長野市野田町1485-1 もんぜんぶら座3階)

募集対象者：① 高校生以上の学生 (25歳未満)  
★参加時に、登録手数料500円・ボランティア活動保険料350円が必要です。  
※会場、参加費は別途案内いたします。

プログラムの詳細・参加申し込みはこちらから  
地域まるごとキャンパス 公式WEBサイト

ユーザー参加者も募集中！  
2020年9月17日(木)まで、登録を完了させる必要があります。登録完了後、参加費を支払っていただきます。

ユーザー 公式WEBサイト

お問い合わせ先：地域まるごとキャンパス事務局 (長野市野田町1485-1 もんぜんぶら座3階)  
TEL:026-223-0051 npo@nagano-shimin.net

# ファシリテーター養成講座

市民活動に取り組むみなさん！  
その現場は**イキイキ**していますか？

現場で役立つファシリテーションの手法を  
6回シリーズで学びます。

**第1回**  
8月27日(木)  
スタート

単発受講  
OK

時間：13:30～16:30  
場所：もんぜんぶら座 304 会議室  
参加費：1,000 円/回  
定員：15 人  
講師

河合宗寛さん  
(ファシリテーションラボ 代表)



※状況によりオンライン開催の場合があります

主催・お申込み  
市民協働サポートセンター  
Tel 223-0051  
npo@nagano-shimin.net



## 各回の予定 テーマ

### ◆ 第1回

8月27日(木)  
会議で話し合う

### ◆ 第2回

9月17日(木)  
チームで協働する

### ◆ 第3回

10月15日(木)  
定期的に集う

### ◆ 第4回

11月12日(木)  
合意形成を体験する

### ◆ 第5回

12月10日(木)  
合意形成を支援する

### ◆ 第6回

2021年  
1月14日(木)  
“場”をデザインする



# SDGs 集中講座

2015年国連で採択されたSDG (Sustainable Development Goals)。長野県は～SDG未来都市～としてSDGの推進に官民あげて取り組んでいます。長野市も、今年度からSDG推進担当職員が設置されるなど、積極的な取り組みを始めました。「でも、SDGって実はよくわからない」という方も多いのでは？そこで!! SDGを実感できる3つのワークショップを10月まで開催します!! 老若男女どなたでも参加できます。この機会にまとめて学んでみませんか？

## ◆ カードゲーム「2030SDGs」

10月9日(金) 15:00～18:00 トイゴ生涯学習センター3階 学習室1  
10月23日(金) 15:00～18:00 もんぜんぶら座3階 304 会議室

## ◆ カードゲーム「SDGs de 地方創生」

10月9日(金) 18:30～21:00 トイゴ生涯学習センター3階 学習室1

## ◆ SDGs アウトサイドインカードゲーム

10月23日(金) 18:30～21:00 もんぜんぶら座3階 304 会議室

講師：藤澤重徳さん (SDGワークショップサポート)・小林達矢 (長野県NPOセンター)  
岡田麻彦さん (クリエイティブラボ)

定員：各講座20名(先着順)  
参加費：一般 1人1講座2,000円 3講座受講の場合5,000円  
大学生以下 1人1講座500円  
ながの協働わっと会員 1人1講座1,000円

申込み：電話か申し込みフォームから申し込み  
主催：NPO法人長野県NPOセンター・ながの協働わっと・長野市市民協働サポートセンター

問い合わせ・申込み  
長野市市民協働サポートセンター  
TEL 026-223-0051 | npo@nagano-shimin.net



申込み  
フォーム

## NPO ステップアップ講座 レッツトライ!

# 助成金



ステップ① 助成金の基本からスタート

ステップ② 申請で気をつけるポイント

ステップ③ 最新の制度のトレンド

ステップ④ 実際に申請書を書いてみよう

伝わりやすい申請書

最新のトレンド

申請書作成ワーク

助成金の基本

講師 栗津 知佳子さん

公益財団法人日本財団で助成制度の設計、申請者の指導、事業評価などの助成金に関する業務を担当。現在はフリーランスで活動中。

団体の活動の発展に役立つ助成金。申請書を受け取る側はどんな視点で見るといいのでしょうか?基本から制度のトレンドまで、わかりやすく説明します。当日は過去に申請した事業/これから申請したい事業内容をご用意の上ご参加ください。

**9/5(土) 13:00-15:30**

もんぜんぶら座3階304会議室(長野市新田町)

対象:NPO・地域活動に取り組む個人や団体等  
参加費:500円 定員:20人

主催・申込み先:長野市市民協働サポートセンター  
TEL:026-223-0051 | npo@nagano-shimin.net

※会場や時間、開催方法は変更になることもございます。

私たちはSDGs SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALSを推進しています。



## NPOステップアップ講座 会計のいろは

# 会計事務処理 お悩み相談会

NPO団体にとって、日々の出納など会計事務処理は悩ましい作業です。期末に際し、助成金の処理・決算を控える団体をはじめ、皆様の困りごとに専門の税理士がお答えします。

初めての決算ですが・・・  
活動計算書?  
財産目録?  
貸借対照表??

日時: 3月20日(土) 13:30～16:00

場所: もんぜんぶら座303会議室

参加費: 300円

対象: NPO、ボランティアなど非営利の活動をしている方  
5団体まで事前予約制  
(1団体につき30分程度の個別相談です)

講師: 北原 正明さん(税理士法人成迫会計事務所税理士)

◆主催 お問い合わせ・申し込み◆  
長野市市民協働サポートセンター  
長野市新田町1485-1 もんぜんぶら座3階  
TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052  
E-mail:npo@nagano-shimin.net



# ステップアップ講座

# NPOカフェ まんまる

NPOステップアップ講座 コミュニティマネジメント いろはの「は」  
Withコロナ時代の市民活動・コミュニティ運営の実践  
リアルとオンラインによる  
ハイブリッドマネジメント

新型コロナウイルスにより気軽に人と接することが難しくなりました。まだまだ終息まで時間がかかる中、緩和と制限、不安と希望が入り交じりながらも、市民活動を停滞させるわけにはいきません。だからこそ情報交換や対話は大切であり、強くあたたかい組織運営が必要となります。いろはの「は」では、今まで学んだ擴大成として、コミュニティマネジメントの原理原則に基づきながらWithコロナ時代での新しく新しい運営について考えていきます。

2021年1月24日 日曜日  
13:00~16:00



会場 **もんぜんぶら座 304会議室**  
またはオンライン  
(呉さんは、オンラインでの講義予定です)  
費用 **もんぜんぶら座参加 1人 500円**  
**オンライン 1アカウント 500円**  
(ワークがあるため1人1アカウントでの参加をお願いします)  
定員 **もんぜんぶら座会場 35名**  
**オンライン受講 50名**

講師 **呉 哲換 (ごてつあき) さん**  
NPO法人CRファクトリー代表理事  
対象 NPO・ボランティア団体・住民自治協議会などの団体運営に携わっている方  
※今まで呉さんの講座を受講した方または、CRファクトリー発行の「コミュニティマネジメントの教科書」を読まれた方が対象となります。  
前日に在久市市民活動サポートセンターで受講予定の方も対象です。

こちらのQRコードからも  
お申し込みいただけます



【主催・問い合わせ・申し込み】

長野市市民協働サポートセンター TEL026-223-0051 FAX026-223-0052  
〒380-0835 長野市新田町1485-1もんぜんぶら座3階 mail:npo@nagano-shimin.net

市民協働サポートセンター CRファクトリー 市民協働

## NPO ステップアップ講座

コロナの状況によって、開催方法や参加費については変更が生じる可能性があります。HP等でご確認ください。

# やみつきになる 広報



**楽しくチラシづくり  
始めよう!**

チラシづくりの基本を学びたい方におススメ!セルフブランディングの手法も取り入れながら、チラシづくりや活動の宣伝を見つめます。

**使いたくなる!  
写真の撮り方+  
SNS 活用**

チラシやパンフレットに入れるための写真撮影のコツを伝えます。あわせて SNS の活用や便利なツールも紹介!

**動画で自分  
PR タイム!**

人に伝えるには、静止画より動画。持って帰ったら即使える自分たちの PR 動画を、スマホで作ってみよう!マークシヨップ形式でやりやす

わん: 5/16(土) 13:30~15:00  
つー: 6/13(土) 13:30~  
すりー: 7/11(土) 13:30~

【当日参加者】ビデオ会議アプリ ZOOM 使用

参加費: 無料(一回目のみ。二回目以降については未定)

定員: 15人/回(先着順) ※申し込まれた方へ前日 URL をお伝えします。

【視聴のみ参加者】上記日程に参加できない方は、後日動画視聴が可能です。

参加費: 無料 ※市民協働サポートセンターにて視聴していただける方

定員: 制限なし ※ただし事前予約制。視聴方法など、詳しくはお問い合わせください。

講師: 寺澤順子さん(ソーシャルデザインセンター)

立岡淳志さん(カメラマン)・阿部今日子(市民協働サポートセンター長)

対象: NPO・市民活動団体、地域活動でチラシづくりをしている方

主催・申込み  
市民協働サポートセンター

Tel223-0051, npo@nagano-shimin.net



▲HP ▲Facebook



## NPO ステップアップ講座

### やみつきになる広報わん・つー・すりー！！

**ねらい** 広報初心者や、広報活動に行き詰っている、楽しめないと感じている方向けに、さまざまな広報の手段を学び、もっと広報を楽しんでほしい。また、自身の団体にとって、「なぜ広報するのか」「自分たちは何を求めるのか」といった活動の原点を考えられる機会にしたいと考えました。3回シリーズでステップを踏みながらレベルアップを目指しました！！

わん!

### 「楽しくチラシづくりをはじめよう」

講師：寺澤順子さん(ソーシャルデザインセンター)

日時：5月16日(土)13:30~16:00

参加人数：11人(当日 zoom 参加8人、後日視聴希望3人)

昨年好評だった広報の基礎である紙媒体のチラシづくり。活動に役立つブランディングについても学びました。

今年はコロナ禍で新たな試みとしてオンラインによる無料開催し、zoomでの参加は8人。東京や市外からの参加もあり、オンラインの可能性を感じるとともに、事前にルールをわかりやすくしておくことが大事など、開催側も反省点がたくさんでした。内容については、「チラシはデザイン重視と思っていたが、まずは目的や企画の趣旨が大事だと知った」といった感想もいただき、満足していただけただけようです。

また、後日 Youtube で希望者に配信したところ、小さい子どもがいる方からは「土日の講座はなかなか参加できないので、とても嬉しい」という声がありました。





## 「写真の撮り方&SNS 活用講座」

講師：立岡淳志さん(カメラマン)

日時：6月13日(土)13:30~16:00

参加人数：11人(当日 zoom 参加9人、後日視聴希望2人)

広報活動で欠かせない写真。撮り方の基本から、素人でもワンランク上の写真が撮れるポイントを伝授。去年はチラシづくり講座とセットでしたが、「もう少し聞きたかった」という声が多かったため、今年は単独テーマで開催。併せて SNS についても、自分の団体にとって使いやすい SNS ツールはどれなのか選ぶため、特徴を紹介しました。今回もオンライン開催。「実技の時間がなかったのは残念」「写真を撮る際の構図や明るさの調整など、自分でもできるコツを教えてもらえてよかった」「SNS についてももう少し聞きたかった」など、さまざまなご意見ご感想をいただき、次回の参考にしたいと思っています。

講師の立岡さんの、丁寧にわかりやすい説明を聞いていると、初心者でも「やってみよう」と気合がはまりました。



すりー!

## 「動画で自分 PR タイム」

講師：寺澤順子さん、立岡淳志さん

日時：7月11日(土)13:30~16:00

参加人数：4人(当日のみ)

百聞は一見に如かず。人に訴えるならば、静止画より動画。見ることは多いが、自分では撮れないし編集もとても難しいのでは？と思っている方たちに「動画って意外と簡単に撮ることができる」と感じてほしいと、動画づくりの基本とコツを教えてくださいました。最初は講義形式で、「動画の作り方」について。いざ動画を作りたいと思ったら、すぐに「撮る」のではなく、企画(なぜこの動画を撮りたいか、誰にむけたメッセージなのかなど)をきちんと考え、シナリオを作り、撮影に入ることが大事だと冒頭に話がありました。その上で、実際に自分たちの所属する団体や自分の特技などをPRするための動画作りの実践。2人組になり、動画作成のためのワークシートを作り、撮影をしてみました。ワークシート作成段階では頭を悩ませている参加者も多かったですが、撮影に入ると意外や意外、みなさんお話はお手の物。笑顔を見せながら、リラックスした様子で撮影していました。

最後に参加者同士、撮ったものを視聴タイム!!それぞれみなさんの個性が光る素敵な動画が出来上がりました。「私にもこんなことができるんだ」と驚きながらも自信を持っていただけようです。



**まとめ** 住民自治協議会や公民館で働いている方や、ボランティアなどの市民活動をしていたり起業をしている方など、さまざまな方が参加してくれました。年齢層は20代から上は80代! 貪欲に知識を吸収しようとするその姿勢に感動しました。

今回の講座は、コロナ禍で開催方法も悩み試行錯誤のなか開催しました。こうした中でも参加したいという声が多く、またこうした中だからこそ、どんな広報=外に向けたアピールができるのか、考える方も多いのではないかと思います。3回のシリーズでしたが、どれも大事なのは「自分たちは、誰に、何を伝えたいのか」「何を目指したいのか」というところでした。常にこれを考え立ち返ることが広報においてもとても重要だと感じました。

今回の講座でいただいた意見も参考に、来年度以降の広報講座について考えていきたいと思っています!

NPOカフェまんまる×長野市域災害時支援ネットワーク交流会

## 「台風19号災害から復興へ 語ろう! つながろう!」

日時 7月5日(日)13:30~16:00

場所 長野市ふれあい福祉センター

参加人数 関係者・メディア含めて92人



2019年10月13日未明、長野市で発生した台風19号による災害は、市内の6地区で大きな被害を出しました。

直後から、市内外のさまざまな人たちが支援活動をしてきました。

そして、これからも。

しかし、市外の団体は、3月ごろから少しずつ長野市を離れています。

市内の団体が活動を受け継ぐ様子も見受けられます。

市内では、もともと災害支援をしている団体だけでなく、新しく生まれた団体、企業や組合などももとは災害支援をしていない団体も多くが被災した地域に入り、活動してきました。

そして、今。

今後の復興に向けて、このさまざまな団体が顔の見える関係でゆるくつながり、

時には個々で、時には一緒に、助け合いながら活動することが必要なのでは?

すでにつながっている団体もたくさんありますが、私たち自身も含めて、

誰も全体像がつかめていないと感じていました。

そこで、長野市災害ボランティア委員会と一緒に交流会を企画しました。

### ◆前半のリレートーク◆

長野市復興推進課、市社協ささえあいセンターから現状と今後について。



小池市復興推進課長からは、現在の被災地域の状況、復興に向けての市の考え方、動きなどを説明。



地域ささえあいセンター小野孝規さんから、コミュニティ支援・個別訪問などの状況、今後の動きについて。

続いて、Hope Apple(穂保被災者支援チーム)と松代復興応援実行委員会にも地域での活動について話してもらいました。



Hope Apple 太田さん。発災直後からずっと民間の力を集めて活動してきました。



松代地区で住民自身が立ち上がった経緯と、今大切にしている復興への取り組みを紹介。

### ◆後半のグループワーク◆

その名も「おでんカフェ」。おでんのようにいろんな人(具)が同じ鍋の中で弱火でコトコトと煮込まれていい味になるようにとの願いを込めました。

まずは、リレートークの感想から・・・。



現在みなさんが現場で見聞きしているニーズを出し合い、そのニーズを受けて今後どんなふうに復興への活動を考えているか？を共有しました。



それぞれに見ているニーズも違いました。

また、ボランティアそのもののあり方についても話し合ったグループがあったようです。

そして、最後に今後復興に向けてやっていきたいこと、やれることを出し合い共有しました。



それぞれが名札に書いた今後の活動を全員で見回り、「いいね！」や「一緒にやりましょう」などメッセージを書きました。



主義主張、手法は違っても目指すのは長野市の復興です。

それぞれの活動を知ることによって自分の立場や活動を改めて見つめることもできたのではないかと思います。

後日回答いただいたアンケートの中には、「今後のために研修をしてはどうか？」「もっとじっくり話したかった」「またやってほしい」などの肯定的な意見もありましたが、中には「ネットワークは必要ない」「運営の仕方に工夫が必要だ」というご意見もありました。今後、このネットワークをどう運営していくか、関係者で話し合っていく必要性を感じました。

また、被災した地域の住民自治協議会から、豊野地区・長沼地区の会長が参加。「何をもって復興か？住民が思う復興への活動を、寄り添いながら支援してもらいたい」というメッセージが発信されました。まんまとしても災害支援とは何か？復興とは？などたくさんの課題をいただいたと思います。

次回は、長野市ボランティア連絡協議会が中心となって第二回目を12月開催予定です。

次の災害がいつ起きるかは誰もわかりません。その時、バラバラで活動するのではなく、

互いの活動の様子を知り、足りないところを補い合ったり、調整し合ったりするつながりができていくことを期待しています。

長野市域災害時支援ネットワーク交流会  
「台風19号災害から復興へ 語ろう! つながろう!!」  
グループセッション模造紙から

<セッション1> リレートークを聞いて、感想と気づき

- ◎ 自分の活動エリア外のことが知れた
- ◎ いろいろな活動が生まれている! →元気になる!
- ◎ 住民自身が動いている
- ◎ 情報伝達に格差がある
- ◎ ボランティアのスキルに差がある
- ◎ 被災者がボランティアに遠慮してしまっていた
- ◎ ボランティアの限界を感じる
- ◎ 松代地区町内の連携が素晴らしい
- ◎ 被災者の声を集約してくれるところはどこ?
- ◎ 篠ノ井の状況が気になる。住民自治協議会は動いているのか? 支援が足りているのかすらわからない
- ◎ 台風19号災害が被災していない市町村にはもうすでに遠くなっているように思う
- ◎ 個人だと情報が入ってこない。熊本のことも気になる
- ◎ 松代は若者の意見をくみ上げてすごい。
- ◎ 無関心な住民の存在
- ◎ まずは被災した住民で話す
- ◎ 住民主体の活動に移行したい
- ◎ 一度でもボランティアに来てくれた人は大切な人材
- ◎ 隠れていた普段のくらしのニーズ
- ◎ ボランティア活動スピードが命
- ◎ 行政とボランティア団体がなかなか連携できない。松代はすごいと思った。
- ◎ 住民自治協議会が一番その地域のことを知っているんだから、もっと連携したい
- ◎ 社協・組織だと動きにくい部分もあるのか? →社協ボラセンだからこそできることは何か?
- ◎ 一人も取り残さないために地域でどう取り組んでいくか?
- ◎ ネットワークづくり重要!

<セッション2> 今私の周りにおけるニーズ、見えているニーズ

メンタル (PTSDの予防など)

- ◎ 子どもの心のケアが必要
- ◎ 話し相手が欲しい → 傾聴
- ◎ 生活全体への不安
- ◎ 次に災害(コロナも含めて)が起きたら・・・という不安
- ◎ 狭い仮設での家族関係
- ◎ 子どもの夏休みが短い
- ◎ 忘れたいけど忘れられたくない
- ◎ 気持ちが前を向かない人をどうしたらいいか?
- ◎ 被害の大小
- ◎ 温度差

復旧残ニーズ

- ◎ 床下や壁のカビ
- ◎ 保育園の堰堤の整備
- ◎ 家屋の修繕や復旧のことで、家族の中でも意見が分かれる
- ◎ 今までニーズを発していない方への聞き取りが必要
- ◎ 流木の撤去
- ◎ 後回しになっていた家屋以外の復旧
- ◎ 公費解体するのに2階の家財道具を置いておくところがない

新たなニーズ

- ◎ 仮設からの引っ越しの手伝い
- ◎ 公費解体やリフォーム・引っ越しのための家財道具の運搬(家族だけでは無理)
- ◎ 農地の泥出し
- ◎ 庭木などの伐採・伐根
- ◎ 次の災害に備える必要がある
- ◎ 荷物の運び出しに軽トラが必要

### 拠点・場所(集まり、つながりなおす場所)

- ◎ コロナの影響で集まらない
- ◎ 飲む場所、話す場所必要
- ◎ 復興についてや、被災した体験を語りたい
- ◎ コンテナハウス撤去が早すぎた
- ◎ 地域住民が顔を突き合わせてじっくり話す場が欲しい(イベントで盛り上がるのもいいけど・・・)
- ◎ 安心して子どもが遊べる場所がほしい
- ◎ 子どもの居場所と学習支援

### 生活の中でのニーズ(実は普段からも課題だった)

- ◎ 草刈(荒廃農地・境内など地域の共有地)
- ◎ 障がいのある人の働きたいという気持ち→農福連携へ
- ◎ 孤立している人

### お金・物資(被災者・支援者別の意味で)

- ◎ 活動にかかるお金を支援してほしい
- ◎ 今後の生活資金が心配
- ◎ お米・夏物衣類などの支援物資
- ◎ 新しい生活に必要なもの(新築した家に置く家財もない・・・)
- ◎ 人を集めずにものを流すシステム

### 情報

- ◎ 被災した住民向けの情報が行き届かない(ネットだけでは届かない)
- ◎ 個人ボランティア向けの情報がみつけれない(コーディネート機能の重要性)
- ◎ 地域の情報が無い

### 住民とボランティアの関係

- ◎ 住民とボランティアの活動のペースが合わない
- ◎ ボランティアに対して負い目を感じる
- ◎ してもらう、もらうことが当たり前になる・・・依存心を育ててしまっていないか?
- ◎ 住民は、自分たちの力で地域を元気にしたいと思っている
- ◎ ボランティアの皆さんの力を借りて復興。与えるだけでなく引き算も大事

### 復興

- ◎ 復興の着地点が見えない
- ◎ どうなったら復興?

### 人材

- ◎ 一緒に活動する人材が不足している
- ◎ 学生ボランティア、コロナで学校で許可が出ないところもあり今後の活動が・・・
- ◎ 復興には住民の力が大事。若い男性に出てきてもらいたい
- ◎ IターンUターンなどの新しい人材
- ◎ 地域の役員と若い人をつなぐ役割の人がほしい
- ◎ 限られた人材で支援している感じがする

### つなぎ役・受け止め役

- ◎ 被災者の声が聞こえない。動きがつかめない
- ◎ まとめ役のコーディネーターがいない
- ◎ NPOと社協の関係
- ◎ 個別の相談に乗ってくれる人が必要
- ◎ どこに相談したらいいのかわからない

### その他

- ◎ 被災猫の問題
- ◎ キャットフードがない
- ◎ 次の災害に備えるノウハウの蓄積
- ◎ 地域防災への障がい者の参加は?
- ◎ 企業の協力が欲しい

### <セッション3>これから何をしたい？

#### 経験やノウハウの伝承

- ◎ 過去の災害の体験を学んで活かしたい。他の団体の経験と知識を共通のものにしていきたい
- ◎ 県外団体さんのスキルやノウハウを吸収する
- ◎ 住民が早く戻れるように家屋の再生！！
- ◎ 床下ボランティアを長野市民で育成
- ◎ 地域の自主防災の取り組み。子どもたちにも防災啓発活動
- ◎ 長野の経験を伝えることで熊本を支援したい
- ◎ 360° 天球映像を活用して伝える支援
- ◎ 忘れない、伝える、つなげる支援を

#### 住民自身の力が大切

- ◎ 「ほやすみ処」サロンオープン。住民が自ら実施してボランティアが協力という形に
- ◎ 住民自治協議会のもともとの活動を工夫しながら再開
- ◎ 長沼支援チーム調整会議スタートした。住民自治協議会＋支援者が参加
- ◎ 物資が自立の妨げてはいけない。

#### ネットワークづくり

- ◎ お互いを知る機会をもちたい
- ◎ 他の支援団体とネットワークづくり
- ◎ 住民の皆さんとゆっくり話をしたい
- ◎ ボランティア団体がやりたいことと、住民ニーズのマッチングをしたい

#### 資金

- ◎ 情報の共有→防災・減災を地域へ→コミュニティ助成金の創設

#### 具体的に「これしたい！！」

- ◎ SNSを活用して家屋再生の相談
- ◎ 仮設、みなし仮設の方が参加できるイベントや交流できる場づくり
- ◎ 新聞紙エコバッグ講習会（脱プラで炊き出しや配食）
- ◎ 傾聴
- ◎ 支援Tシャツの販売

### <全体通しての気づき>

#### これからの活動に求められるもの

- ◎ グループ間の強みを活かしたコーディネーション
- ◎ 地域の人とのコーディネーション
- ◎ 企業も含めて活動できる環境づくり
- ◎ 被災者主体！！
- ◎ ボランティアが不要になるのが本当の復興

## 2020年8月 NPO カフェまんまる

### 『定年後は何をする？』

担当 藤澤

題名	NPO カフェまんまる『定年後は何をする？』
日時	2020年 8月1日(土) 13:30~16:00 (当初 5/23 予定がコロナにより延期された)
場所	もんぜんぷら座 304 会議室 (定員 27 人)
企画協力	ゆる〜いおっさんの会
対象	定年前後の男性
参加者	25 人 参加者 11 人、ゆる〜いおっさんの会 7 人、 長寿社会開発センター 3 人、取材 1 人 スタッフ 3 人
内容	座談会 「定年後の楽しみ、不安、迷い」
広報	市報、市民新聞、週刊長野、信毎、 FM ぜんこうじ、チラシ、SNS
申込者	15 人 (信毎記事 7 人、週刊長野 3、長寿社会 2、FB1、スタッフの誘い 2)



#### ※ゆる〜いおっさんの会

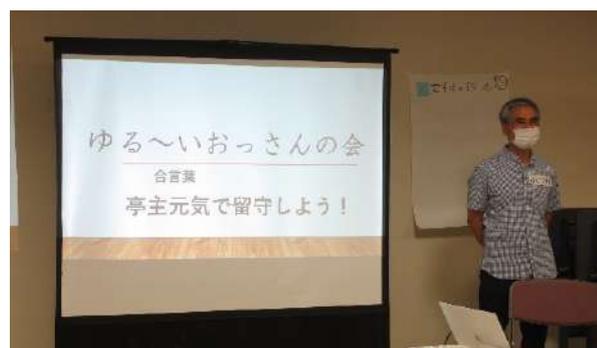
昨年 5/25 に開催した NPO カフェまんまる『定年後は何をする？』の参加者を中心に 10 月に結成された団体でメンバーは 50~70 代の男性のみ。毎月定例会を開いて関心事ややりたいことなどを語り合っています。これからさまざまな活動をしていきます。

- 13:30 自己紹介からスタート 参加の動機では
- ・記事を見た妻に勧められた 2 名
  - ・退職したばかりだが、もう既に家にいて困っている。
  - ・みなさんの話を聞いて自身の今後の参考にしたい



- 14:25 企画団体「ゆる〜いおっさんの会」の紹介コーナー  
パワポを使って発足の経緯、会の趣旨、活動内容を説明しました。

- 15:00 3 組に分かれて座談会スタート
- テーマ① 定年後の楽しいこと、やりたいこと
- ・妻との旅行、畑仕事、音楽、ゴルフ、起業、音楽コレクションの整理、奥さん孝行



・やりたいことがいっぱい楽しみだが今はコロナでみんなストップ状態

テーマ② 定年後の迷い、不安など

・健康、お金、子どもの就職、高齢の両親の介護、相続、実家の処分、墓じまい、家のこと

15：30 全体会で意見交換を行った

定年後の楽しいこと、やりたいこと

- ・ユーチューブで発信していきたい。
- ・まだまだ学びたい。 社会情勢や経済、外国語
- ・本当に自分がやりたいことなのかわからない  
定年後の迷い、不安など
- ・夫婦間の会話が減っている。
- ・話し相手がいない。もし妻に先立たれたら不安



皆さんに質問 : SNS やってますか? ライン7人、フェイスブック5人、ユーチューブ2人  
地域の役はやったことありますか? ある6人

### まとめ (アンケートの声を含め)

- ・ 昨年の参加者は現役が多かったが今回はほとんどがリタイアされた方でした。
- ・ 同世代の男性と話ができ、つながりができてよかった。
- ・ 同じところに悩みがあることがわかった。
- ・ 自分はそうではないが、定年後の問題を感じている人が多いので驚いた。
- ・ また集って話ができればよい。
- ・ ゆるーいおっさんの会には興味がある

などの意見が聞かれました。今回、定員締めきれ後の申込者もおられたので、またおじさんまんまるにつなげて機会を作ってまいります。ご参加ありがとうございました。

そして、「ゆるーいおっさんの会」の皆さまには、事前の準備会から当日の会場設営、受付、記録、タイムキーパー、紹介コーナー、各グループの進行、全体会での発表など、多くの場面でご協力をいただきありがとうございました。

さすが経験豊富なおじさん達だと思いました。



## 自由研究こうりやくダンジョン×NPO 「ケータイにねむるリサイクルのひみつをさがせ」

ケータイ分解体験を通してリサイクルについて考える企画を、市民協働サポートセンターと直富商事株式会社、ソフトバンク株式会社が協働で開催しました。当日は午前と午後の部計 14 人の子どもたちとその保護者が集まりました。

前半は、ソフトバンク株式会社の千野さんから説明を受けながらケータイ分解。普段見ることのできない部分が出てくるにつれ、大人も子どもも興味深々。「これなんだろう…」「これ、金かなあ」などと話しながら作業を進めていました。携帯電話に使われているものはほぼ全てリサイクルに回されます。貴重なレアメタルも多く使われており、リサイクルの重要性を感じ

ました。

後半は中間処理業者の直富商事株式会社の小川さん、中山さんからお話をいただきました。「3R って知ってる？」から始まり、自分ができるリサイクルについて考えました。参加した親子の中には「最近ゴミ問題について学校で習った。これで宿題もできるので、来てよかった」「あまり考えていなかったけど、今までよりゴミを出すときに意識しないと」という感想も。実際にゴミ収集に携わる直富商事株式会社さんのお話は、実感しやすい参加者の胸にも響いたようです。

また、今回市立長野中学校 2 年生が 4 人、事前の準備からボランティアで参加してくれました。看板づくりや当日の司会進行、分解作業のサポートまで積極的に関わってくれる姿は、本当に頼もしかったです。子どもたちに近い視点で説明をしてくれるので、参加者からも「わかりやすい」と喜ばれました。様々な角度から新しいアイデアがでてくるので、わたしたちスタッフも学びが多く、充実した企画になったように思います。企業とNPO、ボランティアがコラボすることで、子どもたちにとっても新たな学びの場ができると期待を持てる取り組みになったと思います。みなさん、ありがとうございました。



▲ソーシャルディスタンスを保ちつつ…

▶熱心に分解作業に取り組む様子





▲基盤を外す作業を頑張り、みんなにっこり



▲直富商事株式会社小川さん(左)、中山さん(右)からリサイクルについて話を聞きました

▶真剣な表情で自分にできるリサイクルについて考える参加者



▲ボランティアの澤本さん、市立中学校の4人と一緒に



▲ソフトバンク株式会社千野さんから解説あり。

## 《レッツトライ！ 助成金》

日 程：9月5日（土） 13：00～15：30

場 所：もんぜんぶら座 304 会議室

内 容：「助成金をうまく活用するために」

講 師：栗津知佳子さん

参加者：16人



### 第1部 講義

まずはお隣の方と自己紹介を！

#### 1.助成金の基本

- ・困っているから資金が欲しい→×

これを成し遂げたい→○・・・助成金は期間限定の一時的なもので安定財源ではない。

#### 2.助成金を出す側は、何を考えてどこを見るのか？助成する側の目的を知る

- ・助成する側は限りある資金を有効に活用したいと考える。
- ・信頼できる団体、実現性の高い事業、広く社会に波及効果がある事業
- ・助成する側が目指すミッションに合致しているか
- ・助成する側の目的の下調べが重要。

#### 3.助成申請の際に気をつけるポイント

・助成する側は、申請者を信頼できるかどうか、自分のお金をその人に預けられるかという観点で見る。

- ・募集要項の無理解、書類の不備、連絡がつかないなどは信頼を落とすので注意
- ・団体の概要、設立経緯、活動実績、ミッション、情報発信（HP）などは見られている。
- ・事業による成果、波及効果、地域・社会に及ぼす変化、期待に合致しているか

#### 4.助成金を申請する前にやっておくとよいこと

- ・信頼度を高めるための情報発信

.

#### 5.最近の助成金のポイント

・「ロジックモデル」（事業がどのような道筋で変化・効果（アウトカム）を実現し、目的を達成しようとしているかの設計図）を 申請の段階から取り入れている助成団体が増えている。これは、事業の設計図を練ってから申請してもらうため、事業に助成す

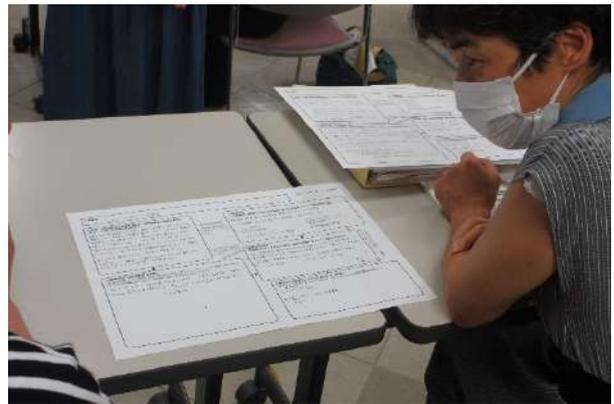
ることでのどのような成果につながるかのイメージを共有するため。

・事業評価（自己評価、助成団体による評価、外部有識者の評価）を求める助成期間が増えている。これは、助成事業により、どんなアウトカムが社会にもたらされたか可視化するため、また助成プログラム自体が目的を達成できたかどうかの評価でもある。

## 第2部 申請書作成ワーク

### 1. ワークシート記入

- ①事業名
- ②背景、なぜこの事業をやるのか？
- ③事業内容
- ④期待される効果（短期アウトカム）
- ⑤期待される成果、どのように測るか
- ⑥事業目的（中長期アウトカム）



時間が足りないですーとの悲鳴も。

### 2. お隣の方とワークシートを交換して読む、そしてお互い話し合う

### 3. 全体から2例を発表

- ・発表にご協力いただいた  
ルルカ様  
共和ゆめクラブ様  
ありがとうございました。



### 4 全体感想

#### 講師から

- ・助成をもらいたい事業にしぼること。あれもこれもアイデアを入れてしまいがち。
- ・事業内容と事業目的（中長期アウトカム）が一致しているか。事業内容は具体的なのに、アウトカムが抽象的になりがち。

#### 参加者から

- ・自分で書いていると申請者本位になりがちだが、助成者側からの視点、ポイントがわかった。
- ・書類の準備にかかる様々な事柄がわかった。申請する時に活かしたい。などの感想が



## 「秘密基地で焚き火会」

- 日 程 9月12日(土) 16:00~20:00
- 場 所 さとやまネット信州 焚き火会場(長野市安茂里小市)
- 共催団体 NPO 法人さとやまネット信州 企画協力費 10,000円
- 参加人数 27人 さとやまネット信州募集9人、まんまる募集9人、  
さとやまネット信州スタッフ6人、まんまるスタッフ3人
- 内 容 さとやまネット信州では毎週土曜日に、安茂里会場で「焚き火会」を開催しており、同法人と活動の紹介と参加者同士の交流
- 参加会費 無料(ボランティア行事保険に加入)  
当初は軽食提供の予定で300円としたが、コロナ感染予防と連日の猛暑から食中毒予防の観点から提供を取りやめ無料とした。
- 広 報 チラシ、市報、市民新聞、週刊長野、FM ぜんこうじ出演、SNS

### スケジュール

- 08:30 さとやまネット信州 岡村さん、春原さんが現地確認し開催決定
- 15:00 スタッフ現地集合  
国道からの誘導係、駐車場係、現地警備係、配置(さとやまネット信州)
- 16:00 参加者は駐車場集合後、現地へ徒歩移動
- 16:30 はじめの会  
さとやまネット信州紹介(塚野さん)
- 16:45 活動開始  
5グループに分かれて石で炉を作る。薪を拾ってきて着火。焚き火開始
- 19:00 おわりの会  
参加者、スタッフから感想、岡村理事長あいさつ。
- 19:20 解散、徒歩移動。消火、後片付け

引きこもりの友人が発した「炎を見たい」の一言からさとやまネット信州では「焚き火会」を始めました。

焚き火には、疲れたところを癒す効果があるそうです。科学的にもゆれる炎が発する「f分の1のゆらぎ」は安らいだ気持ちを与えてくれるものとの説明がありました。

参加者は、思い思いに語るも語らずも自由に時を過ごしました。

はじめの会 様々な世代の参加者が集まる



幻想的な白岩をバックに記念撮影



5グループに分かれてそれぞれ焚き火開始、のんびり交流タイムが始まりました



薪は現地を整備した際に伐採した材木です。

参加者の声

- ・炎を見ているだけで飽きない。何時間でもいられそう。
- ・普段、こんなにボーとしてられることがない。

- ・初対面の人と人生について語り合ってしまった。
- ・職場の会議をここでやったらいい。
- ・家族で参加できてよかった。
- ・こんなに大勢での焚き火会は初めてだったが交流もできてよかったです。  
(さとやまスタッフ)



只々、物静かに炎を眺める人



自力で作った炉で持参したパンを焼く人も。各グループによって、優しい炎、激しい炎、炎の色も様々でした。

黄昏どき、夕闇が迫ります



暗闇に包まれて火の粉が舞う



NPO 法人さとやまネット信州 岡本理事長あいさつ

「長野県は若い人の自殺者が多いと聞いている。炎もそうだが自然は痛めたところを癒してくれるもの。しかし放置しておくとも里山は荒れていってしまう。私たちはここの整備もしているが、人間が自然を守っていく必要があると思う。」

以上

次回同じミドル世代での交流会を開く際にはまんまるを飛ばし、本日参加者の中でもすでにしてある場所を体験してもらう機会も設けるなど、心のよりどころや物理的な居場所としてのサードプレイスの探求を続けていき、ミドル世代に必要とされるのはどんな事でどんな場所なのか考えていきたいと思います。



■その他サードプレイスとして出た意見

- お寺・狩猟・田んぼ・オンラインサロン・デジタル系勉強会・ライブ・劇場
- 誰にも気を使わず1人で思いにふけられる・決まった居場所がないので学べる場所
- 知らない場所へ行き話せる場所
- インターネット・海・温泉 Twitter・スタバ・近所のお店・ドライブ・保護者会など

# NPOカフェまんまる「ミドルの居場所」

日時：2020年10月16日（金）18:30~20:30

場所：もんぜんぶら座3階 304会議室

参加：7人

目的：「家庭」と「仕事」以外の居場所として近年取り上げられるサードプレイス。「ミドル」と呼ばれる働き盛りで悩みやストレスを抱えることも多い世代は「どんな考えを持っているのか」また「今必要とされるのはどんな人にとってのどんな居場所なのか」などを話し合うざっくばらんな座談会として企画しました。

今回は仕事帰りの人をターゲットにしようと花金の夕方を狙って開催しました。

参加者の中にはすでに団体運営や場づくりに携わる方もいましたが、可能な限り自分の素性を明かさずに最初の自己紹介をすることで、全員がフラットな関係で話せるようにしました。

- ①ニックネーム、または本名も可
- ②簡単に自分のPR
- ③今回の参加動機
- ④今、自分の興味ある事好きなこと

まずは自分にとって必要と考えるサードプレイスが、「目的」「癒し」「自発的」「義務的」の各ベクトルのどの位置なのかを付箋を使って書き込み表現してもらいました。するとその多くは「癒し」と「自発的」の方向に向いていました。具体的な内容としては、「Twitter やブログ」などの身分が特定されないオンライン上や「通勤時の車や電車」といった「ひとり」でいられる場所が多いように感じられました。



後半参加者が打ち解けてきたところで、参加者の中からすでに居場所づくりなどで活動している人の話を聞くと、「ぜひその活動に参加したい」「場所へ行ってみたい」などと交流の場に積極的な姿も見られました。

職場と家庭以外の場所として一人の時間を持つことも大切だけど、それだけでなく職場や家庭以外の新たな人とのつながりも持ちたいという気持ちも強くある世代。そんな印象を受けました。



## 地域まんまる in 川中島 「地域の交通を考える」

日 時：11月27日(金)13:30~16:00

場 所：川中島町公民館多目的ホール

参加者：メディア・発表者含め62人

共 催：NPO法人エコライフ・プロジェクト信州・川中島町住民自治協議会



### ■開催までの経緯

昨年度小田切地区で開催した、地域の交通について考える交流会には、多くの方が参加されました。テーマは中山間地の交通ということでしたが、参加者の中には平地の住宅街を抱える地区の方もいて、住民の移動についての課題は中山間地だけではないということがわかりました。

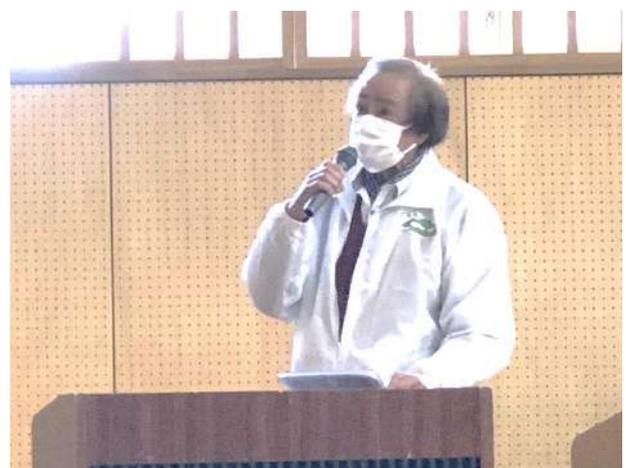
今年度の開催を考える中、地域コミュニティづくりをするNPO法人エコライフ・プロジェクト信州(エコ信)が、「10年後、交通・移動の問題は避けては通れない」と活動を始めたと聞きました。川中島地区内の乗り合いタクシーの現状調査に取り組んでいたのです。それなら、ぜひ一緒に企画をと、川中島町住民自治協議会にも声をかけ3者での協働開催が決まりました。

### ■当日(前半 情報提供)

当日は、地域内外から62人が集まりました。前半、市交通政策課から、川中島地区内を走る乗り合いタクシー川中島号の現状を共有。エコ信からは川中島号に試乗しアンケートを集計した内容について発表。「少なくとも数年間誰も乗降していない停留所がある」「西友川中島店での停車時間が少なく、買い物をするには時間が足りない」「とても狭い道を通っていて危険」。また、「この川中島線を知らない、利用したことがない人も多く、利用している人は限定的」など、動画も用いて問題点を挙げました。



コロナ禍にも関わらず大勢の参加者



川中島線の報告をするエコ信片桐治さん

さらに、後半のワークのために、長野市社会福祉協議会から「地域たすけあい事業」の福祉移送についての現状、先進的な取り組みとして県先端技術活用推進課から小海町と南相木村での ICT を活用した貨客混載の実証実験についての報告もありました。当日飛び入りで松代地区住民自治協議会からも市が公共交通にかけている予算についてと松代での現状、若槻東条区からは住民アンケートの結果から、移動手段に課題のある人が見えてきたことについて報告がありました。

### ■当日(後半 ワークショップ)

後半は全員で意見交換。まず「今地域にはどんなニーズがあるのか?」「使える資源は?」を出し合いました。暮らしに直結する買い物や通院はもちろん、免許返納で外出機会の減少の問題、そして、美容院や温泉など「ふらっとでかけたい」という時間に縛られない移動手段を求める人たちの姿が見えてきました。それに対して、今ある資源は・・・? 移動販売・野菜市や買い物代行、家族・友人・近所での助け合いなどなど。改めて考えてみると意外と地域に資源があると感じた方もいたようです。



#### 「使える資源は?」

最後は「車がなくても暮らせるまちづくり」について意見を出し合いました。考えるのは10年後の未来です。タクシーや移動スーパーの利用、脚力の向上など比較的すぐに個人でできることから、構造的な改革やコンパクトシティを目指すという地域、市全体での転換を求める意見も。送迎付きのサービスの開発やオンラインで買って配達してもらうというアイデア、また、自給自足や住民の支え合い、考え方を考えることも大切では?との意見もありました。



## ★ワークショップのフセンから

### 「今地域にはどんなニーズがあるのか？」

- 外出しなくなり、閉じこもり、認知機能の低下や意欲の低下を招く
- 高齢者を外に出さないと、だめになる。歩けなくても無理やり出すべき!!
- 車の便利さになれてしまっているのに、バス等への移行してほしくても気持ちが変わらない
- 超高齢の人が運転している（免許返納できない）
- 地区内のイベント「はつらつ体操など」に行きたいけど、免許がないので行けない
- 買い物に行けない
- 通院ができない。病院に行きたい（日赤や厚生連、専門医など）
- 山間地でスーパーがなく買い物できない。宅配はあるが、見て選びたい
- 乗り合いタクシーは地区外だと利用できない
- 小田切地区かつら号、便利になったがもう少し乗れる時間を延長してもらいたい
- 通院にタクシーを使うが、高額！
- 高校生の通学に使えるバスが必要
- 地元ではない地域へ行く場合、路線バスや公共交通がわかりにくい、不便
- 長野駅からの土日の最終バスが早すぎる・・・
- ふらっとお出かけできない
- 行きたい時と行きたいところにいけない
- 日帰りで温泉にでもいきたいなあ
- 若い家族は日中働いていて、高齢者は身動き取れない
- カルチャーに行けない
- 畑に行けない
- 公民館や社協、住自協の催し（サロンや会食会など）に参加したいが、車がないといけな  
い→それによって本当に来てもらいたい人が来れない
- 美容院に行きたい

### 「見えそうな資源は？」

- 乗福祉自動車（地域たすけあい事業福祉移送）
- 乗り合いタクシー
- タクシーの障がい者割引（1割）、免許返納割引（1割）
- タクシー
- 小田切はフルデマンドタクシー「かつら号」あり
- 路線バス（路線も本数も減ったけど、不便だけど一応ある）
- おでかけバスポート
- ご近所さんが買い物してくれる
- お買い物バスツアーをやっている地区がある
- 「お買い物おたすけマン」という活動があるが・・・担い手不足・・・どう活かせるか・・・

- エコ信の野菜市
- 生協の共同購入
- 移動スーパー・移動販売者
- 知人・友人
- 家族
- みんなで乗り合わせ（通勤者のマイカーに乗り合う、学校や部活の送迎のついて？）
- 温泉付きの日帰り温泉バス
- 郵便局が御用聞き
- 自転車（鉄道への自転車乗り入れ許可されたら・・・）
- ヒッチハイク！！
- 行きと帰りを分けてなんとか行く、なんとか帰る(；^\_^A

### 「車がなくても暮らせるまちづくり」

- 店などが送迎付きサービスを企画する
- 保育園や社会福祉法人の車、空いている時間帯に活用
- タクシー事業者との連携
- タクシーの割引券を
- 近所で一緒にタクシーに乗り合わせて
- タクシー利用と自家用車維持費明確にしてタクシー利用を進める
- 市民税を上げて乗り合いタクシーやバスの補填に
- 住民の支え合いサービス（許可の要らないさまざまな移動支援。コーディネーター費用を行政が補助すれば広がる）
- 法律での規制を緩和。ボランティアでの送迎サービスができるように
- 移動スーパーや移動販売車の活用
- スーパーのカタログ通販・配達してくれる、支払いは銀行口座
- ネット販売・オンラインお買い物
- 宅配サービス
- 相乗り誘発型MaaSの活用
- 自動運転のシェアカー
- 相乗りシステム開発
- 大型ドローン
- オンデマンドの研究。病院・買い物・観戦・安価に利用したい
- ニーズを見える化してマッチングするシステム（行き帰りの時間だけうまく合う人を見つけられる）

- バーチャル旅行
- ズームお茶会
- オンライン受診
  
- 乗り合いタクシーを買い物・病院・JR（鉄道との結節をよくする）など用途別で便を作る
- バス路線見直し
- バスの乗り方教室に参加
- 総合病院巡回バスの運行
- 訪問医療
  
- コンパクトシティ（街の方に住む）。商店・病院・銀行・コンビニが近くにあるところに引っ越す
- 老人ホームに入るしかないか・・・
- 基本的な隣近所の人たちとフランクにつき合えるまちづくり
  
- 目的地へ行くウォーキングチームを作り、おしゃべりしながら歩く！！
- 脚力向上
- いつまでも歩ける体づくり
- 歩く！足を丈夫にする
  
- 鉄道を中心としたまちづくり。篠ノ井⇄豊野間で。川中島は農業振興地区になっていて無理か・・・耕作放棄地ばかりなのに
- 公共交通の構造改革
  
- 備蓄する（お山は常にちょっと非常事態・・・汗）
- 免許返納する 2 年前くらいから、返納後どうやって生活していくのかを一人ひとり考えてみる
- 自給自足

すぐにできそうなものから、かなりの時間かけて議論しないとできそうもないものまでさまざまな意見が出されました。この問題は長野市内どこの地区でも待ったなしと思われます。できることから始めて行けたらと思います。

#### ■終わりに

みなさんまだまだ話したりない感じでしたが、最後にエコ信の理事長宮下八紘さんから「今後も行政や住民などが一緒に話せる場づくりを」と発信がありました。まんまるでは来年度も引き続きこのテーマについてみなさんと考える機会を作りたいと考えています。

## 【第二部】「共感したら寄付してみよう」

### ①バリアフリースタイル・ルルカ

噛んだり飲み込むことが難しい障がいをもつ子どもたちが食べられるものは限られている。また、見た目もあまりおいしそうなものではなく、誕生日のような特別な日にスイーツも食べられない現実。そこで、見た目もかわいく味もおいしい、栄養もあるものをと商品開発をしている西條智香さんと宮嶋由香理さんのお二人に、その想いと実現したい未来を語っていただき、活動支援につながる寄付付商品の紹介をしてもらいました。寄付付商品であるアロマスプレーなどは、男性陣が興味深々。



### ②NGO VIVASFM TOGO 日本支部

西アフリカのトーゴ共和国では、野外排泄が日常で、そのため病気や野生動物に襲われたり犯罪に巻き込まれる危険性も高い。幼い子どもが命を落とすケースも後が絶たず、そんな悲しいことはこれ以上おきてほしくない！と、同国のご主人をもつ藤澤千尋さんが現地の NGO と協力し、クラウドファンディングを開始しました。自分が親となって感じた命の奇跡、それを守るために自分ができる選択とは何か。藤澤さんの話に心動かされた参加者も多くいました。



今回市内一般向けは初開催でしたが、教育関係者や学生、シニア、中間支援センターのコーディネーターなどさまざまな人が参加してくれました。交流会が終わった後も積極的に情報交換をしあって、「いろんな活動を知ることができた。自分の知らない世界にも出会い、とても面白かった」「寄付と言ってもその形はいろいろあるんだなとわかった」と感想をもらいました。「寄付の教室はSDGsに絡めて発展させていけたら」という提案もいただきました。

カフェまんまるから生まれた縁をどう形にしていくのか、どう発展させていくのか。2021年の動きに乞うご期待！！

# NPOカフェまんまる

## 共感から寄付は生まれるー寄付の教室®で寄付体験しようー

### ■目的

日本ファンデレイジング協会が開発した寄付の疑似体験プログラム「寄付の教室®」を通じ、寄付が身近な社会貢献活動の1つであること、自分の価値観を見つめて寄付先を選ぶきっかけにしてほしい。

### ■日時・場所

2020年12月19日(土)13:30~16:00

市民協働サポートセンター まんまるテーブル

参加者：13人

### ■内容

#### 【第一部】「寄付の教室®で寄付体験をしてみよう」

海外で児童労働をなくす活動をする団体など実際に存在する3つのNPOについて会場全体で学び、自分だったらどこに寄付をしたいかと考えました。その後2つに分かれ、疑似通貨を使用してグループとしてはどこのNPOにいくら寄付するかという寄付体験をしました。ワーク内では、「初等教育は学びとしてもコミュニケーションの場としてもとても大切。地球上のすべての子に教育の場を」と話し、海外支援をするNGOへの寄付を希望する人や、「少し上の先輩の話を知ると将来の希望がわく」と、若者の居場所づくりなど子どもの教育支援活動を行う団体に寄付を希望する学生も。さまざまな意見を出しあうなかで、自分の価値観を見つめ、他の方の考えをまとめることに、参加者のみなさん悩みながらも真剣に取り組んでいました。



#### 【特別企画】「寄付カッション：自分の寄付体験をはなしてみよう」

##### 参加者の声

- ・赤い羽根や宝くじも寄付の1つかな？
- ・海外支援をするNGOワールドビジョンに寄付を毎年している。お礼の手紙がくるのでささやかだけど役に立てていると思えて嬉しい。
- ・学校でおもちゃや学用品などを贈っている。
- ・日本野鳥の会に所属してその会費も寄付になる。
- ・災害時にマルシェを開催し、その売上金+目に見える形で支援しようとおもちゃを購入し地域の子育て支援センターへ送った。
- ・世界の障がいをもつアーティストの作品の購入など。→デザインもいいし、ちょっといいもので嬉しい！

NPOステップアップ講座  
コミュニティマネジメントいろはのは  
**With コロナ時代の市民活動・コミュニティ運営の実践  
リアルとオンラインによるハイブリッドマネジメント**

日 時：1月24日（日）13:00～16:00

場 所：もんぜんぷら座3階304教室&オンライン（zoom）

参加者：30人（内講師1人、オンライン参加15人）

講 師：呉 哲煥（NPO法人CRファクトリー代表理事）

目 的：新型コロナウイルスにより気軽に人が集まることが難しくなり、終息まで時間がかかることが予想される中、緩和と規制を繰り返しながら市民活動を停滞させないためにはどうしたらよいか考えなくてはなりません。そのための組織運営などヒントとなることを、コミュニティ運営の第一人者でもある呉さんから講座とワークショップを交えて伝授していただきます。



今年で3回目のコミュニティマネジメント講座を開催し30人が参加しました。オンラインともんぜんぷら座の会場で並行して実施、まんまるとしても新たな講座開催への挑戦となりました。



■課題共有「コロナ時代の課題・悩み・難しさ」

まず呉さんから課題の共有。現在の社会問題とされる「自殺」「うつ」「児童虐待」「孤独死」などを軽減するには、人と人のつながりをつくる必要がある。そのために強くあたたかい組織やコミュニティをつくること、理念共感・自己有用感・居心地の良さといった要素が重要であると呉さん。そのうえで、ワークショップで各団体の課題共有をおこないました。

■コロナ時代に起きていること

新型コロナウイルス感染拡大により、市民活動の根幹と言える「リアルに人が集まる」ことが難しくなっている現状について、

「イベントが困難」

「高齢者の感染に気を付ける」  
「マスク越したと表情がわかりにくい」  
「オンラインになじめない人がいる」  
「感染警戒レベルごとのコロナ対策が難しい」  
と言った声が上がりました。

これらを踏まえてコロナ禍において重要なことが浮き彫りになったと呉さん。「おしゃべりや雑談」「五感で感じること」など今まで当たり前と思っていたことの大切さを指摘しました。

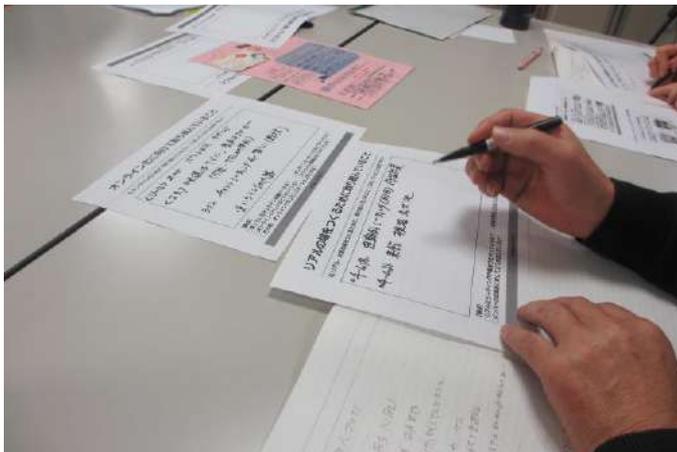


### ■オンライン化をどう進めるか

重要なのはオンラインでもできる環境や仕掛け作りだと言います。

ハード面として道具やツールを知ること。またソフト面では参加者との関係性に適した人数や頻度、環境支援など、一方通行になりやすい環境での「参加感」や「あたたかい雰囲気」、経験を積んで安定感や安心感を持ってもらう。

自分たちが初めての取り組みにチャレンジし、オンラインに弱い団体を支援していくことで回りも巻き込み、協力し合えるあたたかい組織づくりをするチャンスだということです。



### ■リアルな場をどうつくるか

換気やマスク着用などの感染症対策を徹底するのはもちろんのこと、収束後の中長期的な視野を持ちながら状況に応じてリアルでの場づくりが重要となります。感染状況などの様子により、決して活動を止めない形で継続していくこと。ハイブリッドの運営も要となってきます。

呉さんは、「オンラインに形を変えてもコミュニケーションは継続できる。熱量や想いを変えずに、自分たちの使命や役割とは何かを考えることで、改めて活動の原点を見つめなおすきっかけにもなります。コロナ禍をチャンスと捉えて活動を進化させていきましょう」と話しました。

参加者からは「活動を止めるのではなく、雨の中傘をさすようにその時々状況に合わせる事が重要と感じた」「これからの団体運営について前向きな気持ちになった」との感想が寄せられました。

## そ地域まんまる with 地域おこし協力



## 地域おこし協力隊と

## 出会って♡つながって♡コラボしよう！

日時 2月10日(水) 13:30～16:00

場所 篠ノ井交流センター 多目的ホール

参加 43人 NPO関係者、企業、住民自治協議会ほか個人など

## 【企画の経緯】

1月発行の機関誌まんまるの特集は「地域おこし協力隊」でした。

取材する中で、それぞれの協力隊の皆さんが地域のために頑張ってくださっていること、意外と市民には知られていないことを感じ、企画。

当初「そうは言っても関心のある方ってどれくらいいるのだろうか？」と迷いながらのスタートでしたが、

そもそもまんまるの担当課である市地域活動支援課が地域おこし協力隊の担当なのに、これまでやってこなかったこと自体、実はもったいなかったなと思います。

## 【さまざまな人が参加しました!】

地域づくりはよそ者若者ばか者と言われますが、そのよそ者のひとつの形が地域おこし協力隊。長野を選んでくれた彼らの奮闘ぶりを多くの方に肌で感じてもらって、一緒にできることがきっとある!!

企業さんにもお声をかけてみたり試行錯誤でしたが、

当日は参加者が40人を超え、「なんとなく聞いたことはあるけどどんな人なんだろう?」という人や

「一緒に何かできるんじゃないかと思って」という方まで、地域まんまるらしく幅広い背景の方が集まりました。

スタートはお楽しみアイスブレイク

## ★長野の方言クイズ

さもありんな回答にネイティブな長野市民が正解を教えてくださいました。

司会はまんまるスタッフTと高校生ボランティアひなたくん。

Tは県外出身でほとんどわからない言葉ばかり、ひなたくんはおばあちゃんが山間部出身で通訳可能。

なかなかの名コンビ。

あらためて長野の方言の豊かさ、言葉の豊かさに触れました。





池田陽南くん



戸井田 わからない言葉だらけ!!(笑)

★ここが？だよ長野市  
節分の豆まきで落花生をまく  
お茶の時間にお菓子ではなく野沢菜  
お茶をつぎ足しまくる  
地名の漢字が読めない

.....



★ここがすごいよ長野市  
横断歩道で車がキチッととまる  
食べ物おいしい  
思いやりがある人が多い  
りんごがそこらじゅうに成っている

.....

これは協力隊員だけではなく、みなさんの書いたフセンに納得。  
「長野あるあるだね」でした。

さて、ここからが本番。

参加してくれた協力隊(OBも含めて)9人+α(小布施町の協力隊も参加したのです)のプレゼン。

なんで長野に来たの？何をしているの？何を感じているの？

それぞれの思いを語りました。



新人として赴任したての隊員もこれからの夢を語り、温かく見守るみなさんが良い雰囲気を作ってくれました。

続いて自由な交流の時間



自由交流の時間にはどうやらコラボにつながる話もできたようです。

最後の感想共有でも参加者からは

「これから受け入れを検討している、今日は勉強になった」

「一緒に親子向けのワークショップを」など具体的な提案も出ました。

協力隊員からは

「自分の生き方をいいねといってもらってよかった」「みなさんと一緒にできることを考えたい」

「私のいる地域はとて面白いところ、ぜひ遊びに来てもらいたい」などの感想。

最後はみんなで集合写真。



この日の出会いがひとつでも形になりますように、  
そして、これから来てくれる協力隊の皆さんが地域であたたかく迎えられますように。  
一緒に地域を元気にする仲間として。

# 「バレンタイン DAY にチョコっと市民活動♡」報告レポート！

2月14日(日)、消費についてエシカルやフェアトレードの観点から考える交流会を開催しました。会場である善光寺表参道の雑貨店 cuble(キューブルー)に、30代から70代までの参加者7人(なんと all 女子☆)が集まりました。

「フェアトレードって聞いたことがあるけどよく知らなかったのだから」  
「キューブルーで買い物をしたことがあり、その店長さんのお話を聞きたい！」  
「誘われてとりあえず来てみた！」  
「チョコが好きだから」など、参加したきっかけはさまざま。

まずはキューブルーの店長祢津厚子さんから、フェアトレードとはどういうこと？どうして今フェアトレードなの？という話を聞きました。

- ・フェアトレードとは「公正な貿易・取引」を意味し、フェアトレード商品とは公正な取引を元にした商品のこと。生産地が日本であっても海外であっても、そもそも公正に取引ができて当たり前なのではないか。
- ・フェアトレードの認知度はだんだん上がっているが、まだまだ。
- ・自分が手にした商品がどんな風に作られたのかなどと考えることが大切。
- ・フェアトレードだから購入する、のではなく、商品そのものに魅力があるから購入するようになってほしい。だからこそキューブルーでは、「フェアトレードだ」と特別に分けたり明記しているわけではない。

といった取り扱うお店ならではの視点の話もありました。



店内を回り実際に商品を手取る時間も。  
開店前だったので、完全貸し切り状態！特別な時間になりました。

最後は感想と「自分たちにできるエシカル」に自由に意見を出しあい交流しました。

「今は洋服の値段も下がり、フェアトレード商品(特に洋服)は価格が高く感じる」といった率直な感想もあり、

・今より商品を購入する人が増えればロットも増え、手に取りやすい価格帯になるだろう



・高いものではあるが、それだけ考え購入したものは長く大切に使うのではないかと。長い目で見てどうか、で考えたらまたその価格に対する感覚も変わる。

・無理することはない。価格ではない。手にしたものを丁寧に大切に使う、それが大事なのではないか。

とたくさんのやり取りがありました。

自分にできることは、

「買い物は投票なんだ! (#Earth おじさん)」

「着られなくなった洋服も、すぐに捨てるのではなく有効活用してもらえるように考える・古着屋の活用」

「友人にもエシカル消費について勧めたい」

「物が作られたその奥も少し感じてみる」

など葉っぱやハートのふせんに書かれ、エシカルの木ができました。

センターにも貼ってあります。ぜひ見に来て、みなさんのエシカルも教えてくださいね。

当日は長野朝日放送、信濃毎日新聞の取材も入りました。

## このままでいいのか！？おれ（わたし）の今まで おれ（わたし）のこれから 少し話してみようか ～ミドルの居場所～

日時：2021年3月13日土曜日 13:30～15:30

場所：もんぜんぷら座3階304会議室

30～40代は、仕事や子育てなどで大変な世代と言われる一方、今後の人生を左右するような岐路に立つこともあるのではないのでしょうか？

- すでに定年後をも見据え「退職した後何をするか？」「子どものために何ができるか？」
- いままで仕事に専念してきたけど「本当にやりたいことは何か？」
- 今の生活の中での「生きがいやよりどころはある？」

そんな心の中のモヤモヤを話したいと、6名が参加しました。

小さい頃の夢や、特技や趣味、自分の価値観などを改めて書き出してもらい「自分棚卸」をすることで、描いていた自分と現実の自分とのギャップ、またその穴埋めを考えるきっかけを一つの着地点と考えていました。

自己紹介後まずはトーキングゲームを使って、「話を聴く（傾聴）」「心を開いて話す（自己開示）」といったお互いに打ち解け合う練習からはいりました。トーキングゲームとは、めくったカードに書かれたことにひたすら答え、聞き手は口をはさまず聞くというコミュニケーションツール。社会人としてはそれなりの立場になり、普段の仕事や生活では強く見せたり、かっこつけたりする年代。質問の答えがネガティブなものでも素直に答え、気取らず、自分をさらけ出し、場の雰囲気は自然と和んでいきました。



話が盛り上がり、この時点で1時間を超えてしまい、いよいよ続いて本題の「自分棚卸」に。子どものころの夢を幼稚園の頃から20代まで順を追って発表。「幼稚園時代のなりたかった特撮ヒーローになりたかった」などあるあるの答えや、周囲の期待に応えたいと言われるがまま夢もなく、勉強に向かっていた頃が「暗黒の学生時代」だったという人も。他の参加者から共感の言葉も多く、話は尽きず盛り上がりも最高潮に。しかしここまでの進行で残念ながらタイムオーバーとなりました。同世代同士ならではの時間、普段フラットな関係で話ができる人がいないのかもしれないと感じました。

今ミドル世代に必要なのはそんな風に話ができる環境や場所なのかもしれません。もっと潜在的に関係性を求める人々が多いのでは？ 対等な立場で話をすることの重要性を感じました。

